

平成29年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		栃木県		市町村類型	I－O		指定団体等の指定状況		区分		平成29年度(千円)	平成28年度(千円)	区分		平成29年度(千円・%)	平成28年度(千円・%)								
							財政健全化等	×	歳入総額	12,317,456	12,690,378	実質収支比率	6.9	6.9										
市町村名		那須烏山市		地方交付税種地	2-2		財源超過	×	歳出総額	11,682,249	12,071,399	経常収支比率	91.7	92.9										
							首都	×	歳入歳出差引	635,207	618,979	(※1)	(96.3)	(97.5)										
							近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	60,844	36,935	標準財政規模	8,333,004	8,410,780										
								×	実質収支	574,363	582,044	財政力指数	0.44	0.44										
人口		27年国調(人)	27,047	産業構造 (※5)			中部	×	単年度収支	-7,681	182,100	公債費負担比率	15.1	15.0										
		22年国調(人)	29,206 <th>過疎</th> <th>×</th> <th>積立金</th> <th>564</th> <th>1,091</th> <th>健全化判断比率</th> <td></td> <td></td>				過疎	×	積立金	564	1,091	健全化判断比率												
		増減率 (％)	-7.4 <th>山振</th> <th>×</th> <th>繰上償還金</th> <th>5,250</th> <th>0</th> <th>実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td>				山振	×	繰上償還金	5,250	0	実質赤字比率	-	-										
住民基本台帳人口 (※7)		30.01.01(人)	27,161 <th rowspan="2">区分</th> <th>27年国調</th> <th>22年国調</th> <th>低開発</th> <th>×</th> <th>積立金取崩し額</th> <td>138,573</td> <td>345,566</td> <th>連結実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td>	区分	27年国調	22年国調	低開発	×	積立金取崩し額	138,573	345,566	連結実質赤字比率	-	-										
		うち日本人(人)	26,904 <th rowspan="2">第1次</th> <td>1,562</td> <td>1,593<th>指数表選定</th><td>○<th>実質単年度収支</th><td>-140,440</td><td>-162,375<th>実質公債費比率</th><td>7.1</td><td>7.3</td></td></td></td>		第1次	1,562	1,593 <th>指数表選定</th> <td>○<th>実質単年度収支</th><td>-140,440</td><td>-162,375<th>実質公債費比率</th><td>7.1</td><td>7.3</td></td></td>	指数表選定	○ <th>実質単年度収支</th> <td>-140,440</td> <td>-162,375<th>実質公債費比率</th><td>7.1</td><td>7.3</td></td>	実質単年度収支	-140,440	-162,375 <th>実質公債費比率</th> <td>7.1</td> <td>7.3</td>	実質公債費比率	7.1	7.3									
		29.01.01(人)	27,600 <th rowspan="2">第2次</th> <td>11.7</td> <td>11.5<th></th><th></th><th rowspan="4">基準財政収入額</th><td rowspan="4">3,090,066</td><td rowspan="4">3,068,764<th>将来負担比率</th><td>8.9</td><td>19.9</td></td></td>	第2次		11.7	11.5 <th></th> <th></th> <th rowspan="4">基準財政収入額</th> <td rowspan="4">3,090,066</td> <td rowspan="4">3,068,764<th>将来負担比率</th><td>8.9</td><td>19.9</td></td>			基準財政収入額	3,090,066	3,068,764 <th>将来負担比率</th> <td>8.9</td> <td>19.9</td>	将来負担比率	8.9	19.9									
		うち日本人(人)	27,347 <th rowspan="2">第3次</th> <td>4,547</td> <td>4,729<th></th><th></th><th>基準財政需要額</th><td>6,866,656</td><td>6,913,274</td></td>		第3次	4,547	4,729 <th></th> <th></th> <th>基準財政需要額</th> <td>6,866,656</td> <td>6,913,274</td>						基準財政需要額	6,866,656	6,913,274									
		増減率 (％)	-1.6 <th rowspan="2">第3次</th> <td>33.9</td> <td>34.1<th></th><th></th><th>標準税収入額等</th><td>3,922,714</td><td>3,881,071</td></td>	第3次		33.9	34.1 <th></th> <th></th> <th>標準税収入額等</th> <td>3,922,714</td> <td>3,881,071</td>						標準税収入額等	3,922,714	3,881,071									
		うち日本人(%)	-1.6 <th></th> <th></th> <th>経常経費充当一般財源等</th> <td>7,744,450</td> <td>7,791,965</td>				経常経費充当一般財源等	7,744,450	7,791,965															
面積 (km ²)		174.35 <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>歳入一般財源等</th> <td>9,474,415</td> <td>9,738,907<th colspan="2">資金不足比率 (※4)</th><td></td><td></td></td>							歳入一般財源等	9,474,415	9,738,907 <th colspan="2">資金不足比率 (※4)</th> <td></td> <td></td>	資金不足比率 (※4)												
人口密度 (人/km ²)		155 <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>																						
世帯数 (世帯)		9,439 <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>																						
職員の状況 (※8)																								
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高		12,443,095	13,219,671	資金不足比率 (※4)											
	市区町村長	1	7,500 <th>一般職員</th> <td>214</td> <td>649,490</td> <td>3,035<th colspan="2">うち公的資金</th><td>3,599,493</td><td>3,499,565</td></td>		一般職員	214	649,490	3,035 <th colspan="2">うち公的資金</th> <td>3,599,493</td> <td>3,499,565</td>	うち公的資金		3,599,493	3,499,565												
	副市区町村長	1	6,100 <th>うち消防職員</th> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <th colspan="2">債務負担行為額(支出予定額)</th> <td>1,068,102</td> <td>1,147,299</td>		うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)		1,068,102	1,147,299												
	教育長	1	5,600 <th>うち技能労務職員</th> <td>7</td> <td>20,881</td> <td>2,983<th colspan="2">収益事業収入</th><td>-</td><td>-</td></td>		うち技能労務職員	7	20,881	2,983 <th colspan="2">収益事業収入</th> <td>-</td> <td>-</td>	収益事業収入		-	-												
	議会議長	1	3,700 <th>教育公務員</th> <td>10</td> <td>34,187</td> <td>3,419<th colspan="2">土地開発基金現在高</th><td>200,084</td><td>200,043</td></td>		教育公務員	10	34,187	3,419 <th colspan="2">土地開発基金現在高</th> <td>200,084</td> <td>200,043</td>	土地開発基金現在高		200,084	200,043												
	議会副議長	1	3,000 <th>臨時職員</th> <td>-</td> <td>-</td> <td>-<th rowspan="2">積立金現在高</th><th>財政調整基金</th><td>1,851,633</td><td>1,844,642</td></td>		臨時職員	-	-	- <th rowspan="2">積立金現在高</th> <th>財政調整基金</th> <td>1,851,633</td> <td>1,844,642</td>	積立金現在高	財政調整基金	1,851,633	1,844,642												
	議会議員	16	2,700 <th>合計</th> <td>224</td> <td>683,677</td> <td>3,052<th>減債基金</th><td>117,461</td><td>117,426</td></td>		合計	224	683,677	3,052 <th>減債基金</th> <td>117,461</td> <td>117,426</td>		減債基金	117,461	117,426												
						ラスパイレス指数	99.8 <th>その他特定目的基金</th> <td>4,423,773</td> <td>4,221,517</td>			その他特定目的基金	4,423,773	4,221,517												
一般会計等の一覧																								
項番		会計名	事業会計の一覧		項番		会計名	公営企業(法適)の一覧		項番		会計名	公営企業(法非適)の一覧		項番		組合等名	地方公社・第三セクター等一覧		項番		団体名	(※3)	
(1)		一般会計	(3)		国民健康保険特別会計		(6)		水道事業会計		(7)		簡易水道事業特別会計		(10)		南那須地区広域行政事務組合(普通会計)		(16)		那須烏山市農業公社			
(2)		熊田診療所特別会計	(4)		介護保険特別会計						(8)		下水道事業特別会計		(11)		南那須地区広域行政事務組合(病院会計)							
			(5)		後期高齢者医療特別会計						(9)		農業集落排水事業特別会計		(12)		栃木県市町村総合事務組合(一般会計)							
															(13)		栃木県市町村総合事務組合(特別会計)							
															(14)		栃木県後期高齢者医療広域連合(一般会計)							
															(15)		栃木県後期高齢者医療広域連合(特別会計)							

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	3,298,690	26.8	3,298,690	41.0	普通税	3,289,571	99.7	47,404	
地方譲与税	134,539	1.1	134,539	1.7	法定普通税	3,289,571	99.7	47,404	
利子割交付金	4,257	0.0	4,257	0.1	市町村民税	1,387,659	42.1	47,404	
配当割交付金	12,948	0.1	12,948	0.2	個人均等割	47,710	1.4	-	
株式等譲渡所得割交付金	13,690	0.1	13,690	0.2	所得割	1,086,814	32.9	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	87,885	2.7	14,481	
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	法人税割	165,250	5.0	32,923	
地方消費税交付金	488,992	4.0	488,992	6.1	固定資産税	1,643,085	49.8	-	
ゴルフ場利用税交付金	40,585	0.3	40,585	0.5	うち純固定資産税	1,642,095	49.8	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	87,879	2.7	-	
自動車取得税交付金	37,308	0.3	37,308	0.5	市町村たばこ税	170,948	5.2	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	鉱産税	-	-	-	
地方特例交付金	9,192	0.1	9,192	0.1	特別土地保有税	-	-	-	
地方交付税	4,540,904	36.9	3,990,591	49.6	法定外普通税	-	-	-	
普通交付税	3,990,591	32.4	3,990,591	49.6	目的税	9,119	0.3	-	
特別交付税	545,377	4.4	-	-	法定目的税	9,119	0.3	-	
震災復興特別交付税	4,936	0.0	-	-	入湯税	9,119	0.3	-	
（一般財源計）	8,581,105	69.7	8,030,792	99.8	事業所税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	2,046	0.0	2,046	0.0	都市計画税	-	-	-	
分担金・負担金	57,602	0.5	-	-	水利地益税等	-	-	-	
使用料	125,936	1.0	3,766	0.0	法定外目的税	-	-	-	
手数料	15,628	0.1	-	-	旧法による税	-	-	-	
国庫支出金	1,247,928	10.1	-	-	合計	3,298,690	100.0	47,404	
国有提供交付金（特別区財調交付金）	-	-	-	-					
都道府県支出金	880,586	7.1	-	-	区分		平成29年度	平成28年度	
財産収入	14,302	0.1	3,267	0.0	徴収率 (%)	現・計 年	合計	97.9 85.3	
寄附金	13,934	0.1	-	-			市町村民税	99.2 95.9	
繰入金	218,979	1.8	-	-			純固定資産税	96.2 74.9	
繰越金	320,979	2.6	-	-	公営事業等への繰出				
諸収入	275,931	2.2	3,713	0.0	合計	1,778,342	実質収支	250,226	
地方債	562,500	4.6	-	-	病院	449,578	再差引収支	223,659	
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-	下水道	259,367	加入世帯数（世帯）	4,494	
うち臨時財政対策債	400,000	3.2	-	-	上水道	45,706	被保険者数（人）	7,644	
歳入合計	12,317,456	100.0	8,043,584	100.0	簡易水道	23,284	被保険者 1人当り	保険税（料）収入額 107	
					国民健康保険	254,093		国庫支出金 105	
					その他	746,314		保険給付費 305	

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額（A）	構成比	（A）のうち普通建設事業費	（A）のうち充当一般財源等	
議会費	126,671	1.1	486	126,671	
総務費	1,395,089	11.9	10,921	1,271,559	
民生費	3,627,852	31.1	78,011	1,907,303	
衛生費	1,390,952	11.9	29,014	1,300,572	
労働費	299	0.0	-	299	
農林水産業費	520,214	4.5	222,581	256,083	
商工費	608,077	5.2	118,300	291,602	
土木費	741,333	6.3	318,905	541,382	
消防費	595,140	5.1	63,621	587,780	
教育費	1,225,014	10.5	73,812	1,112,079	
災害復旧費	13,041	0.1	-	10,311	
公債費	1,438,567	12.3	-	1,433,567	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	11,682,249	100.0	915,651	8,839,208	

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	5,291,753	45.3	3,833,708	3,812,750	45.2
人件費	1,872,300	16.0	1,766,563	1,746,672	20.7
うち職員給	1,233,974	10.6	1,144,298	-	-
扶助費	1,980,886	17.0	633,578	632,761	7.5
公債費	1,438,567	12.3	1,433,567	1,433,317	17.0
元利償還金	1,438,567	12.3	1,433,567	1,433,317	17.0
うち元金	1,339,076	11.5	1,334,076	1,333,826	15.8
うち利子	99,491	0.9	99,491	99,491	1.2
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	5,461,804	46.8	4,671,457	3,931,700	46.6
物件費	1,611,635	13.8	1,337,137	1,109,999	13.1
維持補修費	98,242	0.8	96,631	96,631	1.1
補助費等	2,156,975	18.5	2,055,931	1,741,185	20.6
うち一部事務組合負担金	1,026,741	8.8	1,026,741	972,260	11.5
繰出金	1,283,058	11.0	1,074,704	976,835	11.6
積立金	114,844	1.0	100,004	-	-
投資・出資金・貸付金	197,050	1.7	7,050	7,050	0.1
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	928,692	7.9	334,043	-	-
うち人件費	37,085	0.3	37,085	-	-
普通建設事業費	915,651	7.8	323,732	-	-
うち補助	532,635	4.6	69,577	-	-
うち単独	368,370	3.2	246,771	-	-
災害復旧事業費	13,041	0.1	10,311	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	11,682,249	100.0	8,839,208	-	-

（注釈）

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

（注釈）
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

	会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1	一般会計	12,271	11,643	628	567	219	12,443	
2	熊田診療所特別会計	57	49	7	7	9	-	
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								実質赤字額
計	一般会計等(純計)	12,319	11,683	635	574		12,443	-

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

	会計名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1	国民健康保険特別会計	4,226	3,960	265	265	254	-	-	-	
2	介護保険特別会計	2,723	2,648	75	75	379	-	-	-	
3	後期高齢者医療特別会計	330	323	7	7	97	-	-	-	
4	水道事業会計	522	433	89	1,086	38	2,448	370	-	法適用企業
5	簡易水道事業特別会計	121	108	13	13	23	149	75	-	法非適用企業
6	下水道事業特別会計	423	405	17	17	225	2,516	2,516	-	法非適用企業
7	農業集落排水事業特別会計	57	55	2	2	35	249	249	-	法非適用企業
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
31										
32										
33										
34										
35										連結実質赤字額
計	公営企業会計等				1,466					-

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

	一部事務組合等名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
1	南那須地区広域行政事務組合(普通会計)	1,778	1,736	42	38	20	547	299	
2	南那須地区広域行政事務組合(病院会計)	1,066	206	859	859	-	1,272	792	
3	栃木県市町村総合事務組合(一般会計)	9,457	9,295	162	162	7	-	-	
4	栃木県市町村総合事務組合(特別会計)	22	16	6	6	6	-	-	
5	栃木県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	197	185	12	6	6	-	-	
6	栃木県後期高齢者医療広域連合(特別会計)	211,751	202,550	9,201	9,201	-	-	-	
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
計	一部事務組合等				10,272		1,819	1,091	

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

	地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
1	那須烏山市農業公社	▲1	57	22	8	-	-	-	-	
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
31										
32										
33										
34										
35										
36										
37										
38										
39										
40										
41										
42										
43										
44										
45										
46										
47										
48										
49										
50										
51										
52										
53										
54										
55										
56										
57										
58										
59										
60										
61										
62										
63										
64										
65										
66										
67										
68										
69										
70										
71										
72										
73										
74										
75										
76										
77										
78										
79										
80										
81										
82										
計	地方公社・第三セクター等									

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

公債費負担の状況

実質公債費比率（千円・％）				
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比
元利償還金	1,448,769	1,460,808	1,433,317	20.8
減債基金積立不足算定額	-	-	-	-
準元利償還金				
満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-
公営企業債の元利償還金に対する繰入金	248,410	251,926	247,664	3.6
組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	220,106	241,930	231,390	3.4
債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	11,546	11,460	11,422	0.2
一時借入金の利子	-	-	-	-
合計	(A) 1,928,831	1,966,124	1,923,793	
内訳	平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比
PFI事業に係るもの	-	-	-	-
いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
その他上記に準ずるもの	11,546	11,460	11,422	0.2
利子補給に係るもの	-	-	-	-
特定財源の額	(B) 1,950	250	5,000	
標準財政規模	(C) 8,505,253	8,410,780	8,333,004	
算入公債費等の額	(D) 1,439,314	1,437,728	1,437,297	
	(C)-(D) 7,065,939	6,973,052	6,895,707	
実質公債費比率	(単年度) 6.9	7.6	7.0	
((A)-((B)+(D))) / ((C)-(D)) × 100	(3ヵ年平均) 7.7	7.3	7.1	

将来負担の状況

将来負担比率（千円・％）												
区分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比	内訳		平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比	
将来負担額	一般会計等に係る地方債の現在高	13,894,758	13,219,671	12,443,095	180.4	債務負担行為	PFI事業に係るもの	-	-	-	-	
	債務負担行為に基づく支出予定額	22,883	11,423	-	-		いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-	
	公営企業債等繰入見込額	3,548,431	3,391,028	3,210,071	46.6		国営土地改良事業に係るもの	-	-	-	-	
	組合等負担等見込額	1,444,414	1,269,056	1,091,450	15.8		森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-	
	退職手当負担見込額	2,955,757	2,953,214	2,959,848	42.9		地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-	
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	-	-		依頼土地の買い戻しに係るもの	-	-	-	-	
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	-	-	-		社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-	
	連結実質赤字額	-	-	-	-		損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-	
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-		引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-	
	合計	(E)	21,866,243	20,844,392	19,704,464			その他上記に準ずるもの	22,883	11,423	-	-
充当可能財源等	充当可能基金	5,329,474	5,372,489	5,792,325	84.0	企業債等繰入見込額	下水道事業特別会計	2,638,504	2,581,224	2,515,980	36.5	
	充当可能特定繰入	21,404	19,188	13,734	0.2		水道事業会計	521,010	451,584	369,677	5.4	
	基準財政需要額算入見込額	14,751,964	14,063,347	13,277,842	192.6		農業集落排水事業特別会計	281,345	265,379	249,397	3.6	
	合計	(F)	20,102,842	19,455,024	19,083,901			簡易水道事業特別会計	107,533	92,823	75,017	1.1
	将来負担比率((E)－(F))／((C)－(D))×100		24.9	19.9	8.9			その他の会計	39	18	-	-
健全化判断比率	健全化判断比率	平成29年度	早期健全化基準	財政再生基準	公社・三セク等	地方道路公社に係る将来負担額	-	-	-	-		
	実質赤字比率	-	13.67	20.00		土地開発公社に係る将来負担額	-	-	-	-		
	連結実質赤字比率	-	18.67	30.00		地方独立行政法人に係る将来負担額	-	-	-	-		
	実質公債費比率	7.1	25.0	35.0		その他第三セクター等に係る将来負担額	-	-	-	-		
	将来負担比率	8.9	350.0									

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人	口	27,161	人(H30.1.1現在)		
うち日本人		26,904	人(H30.1.1現在)		
面積		174.35	k㎡		
歳入総額		12,317,456	千円	実質赤字比率	- %
歳出総額		11,682,249	千円	連結実質赤字比率	- %
実質収支		574,363	千円	実質公債費比率	7.1 %
標準財政規模		8,333,004	千円	将来負担比率	8.9 %
地方債現在高		12,443,095	千円	市町村類型	H25 I-O H26 I-O H27 I-O
				(年度毎)	H28 I-O H29 I-O

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

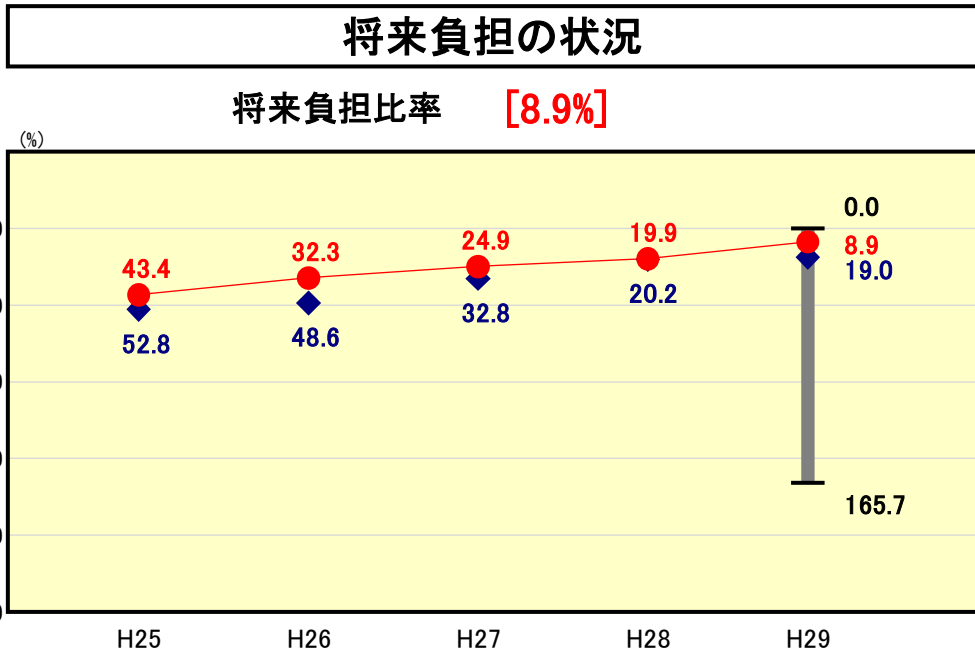
※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

※「定員管理の状況」及び「給与水準(国との比較)」は地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、平成29年度の数値については、前年度の数値を引用している。

※人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

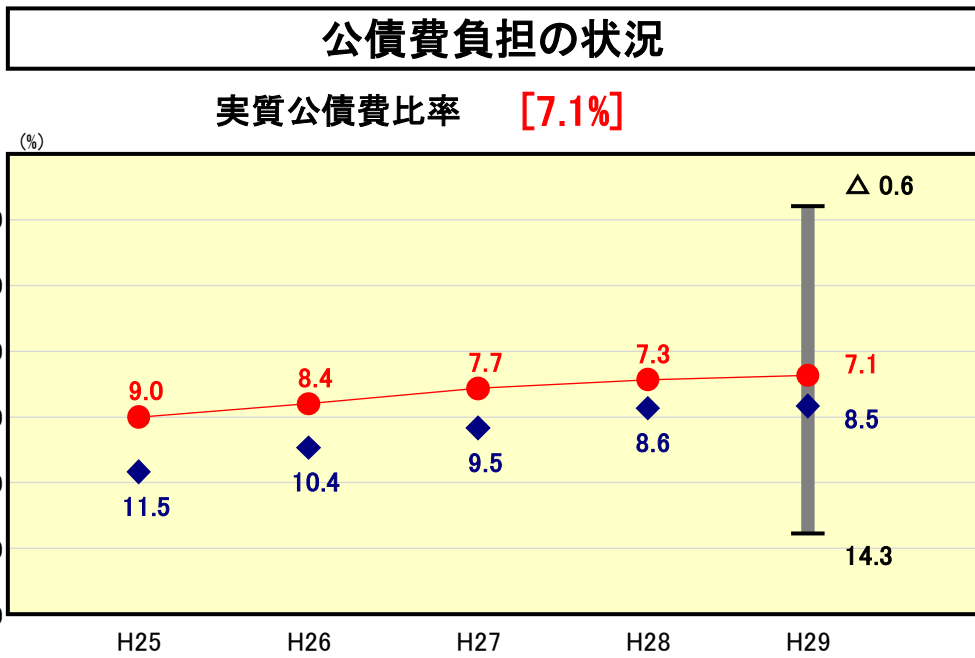
※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 15/35
全国平均 33.7
栃木県平均 6.2

将来負担比率の分析欄

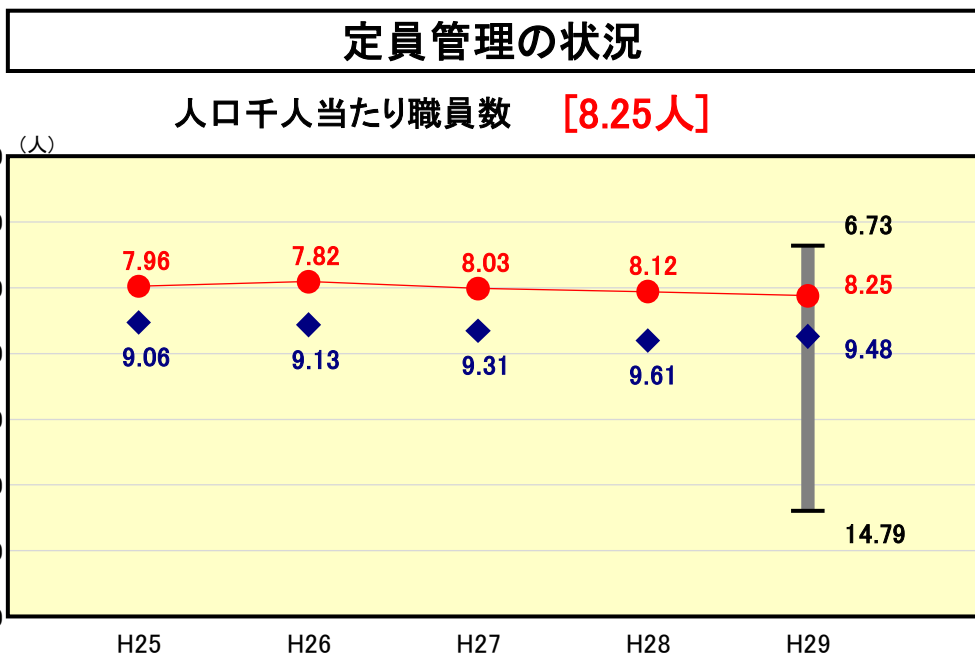
将来負担比率は年々減少傾向にあり、平成29年度についても前年度と比較して大幅に減少した。これは、行財政集中改革プランに基づき地方債の発行を控え、償還額以内としているためである。また、特定目的基金への積み立てにより充当可能金額が増加したことも主な要因となっている。今後は、市中長期財政計画を基準とした財政運営を行うことで引き続き将来負担比率の抑制に努め、財政の健全化を図っていく。



類似団体内順位 9/35
全国平均 6.4
栃木県平均 5.9

実質公債費比率の分析欄

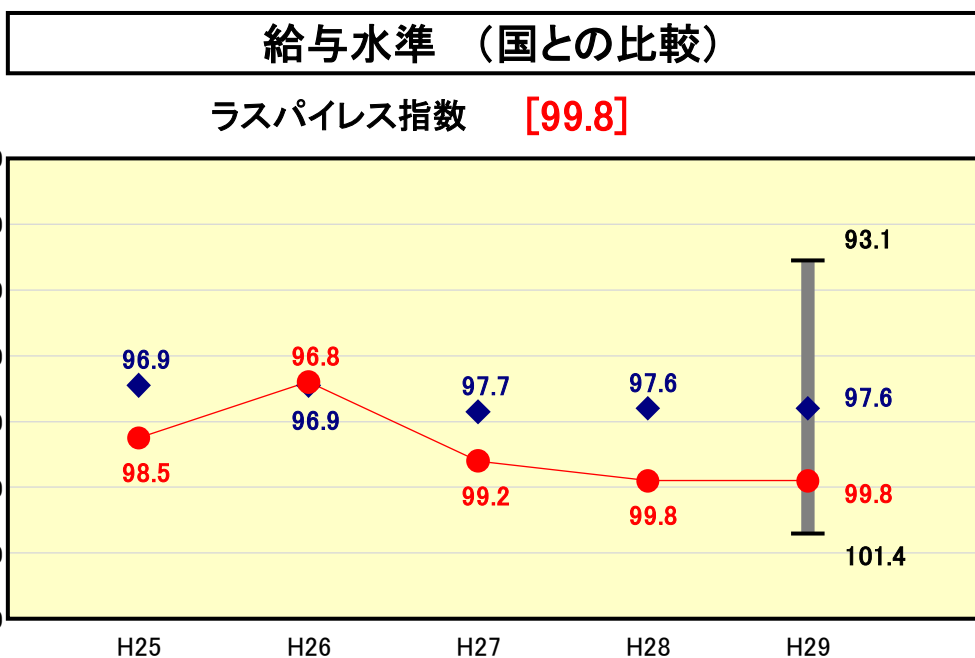
実質公債費比率は、年々減少傾向にあり改善がみられる。これは、行財政集中改革プランに基づき地方債の発行を控え、償還額以内としていること、また、普通交付税措置の割合が高く有利な起債(合併特例債、辺地対策事業債)を利用したことが要因となり、数値が減少し、類似団体の平均を下回る結果となっている。今後も起債額は減少していく見込みであるため、実質公債費比率の数値も低くなっていく。



類似団体内順位 7/35
全国平均 7.91
栃木県平均 6.77

人口千人当たり職員数の分析欄

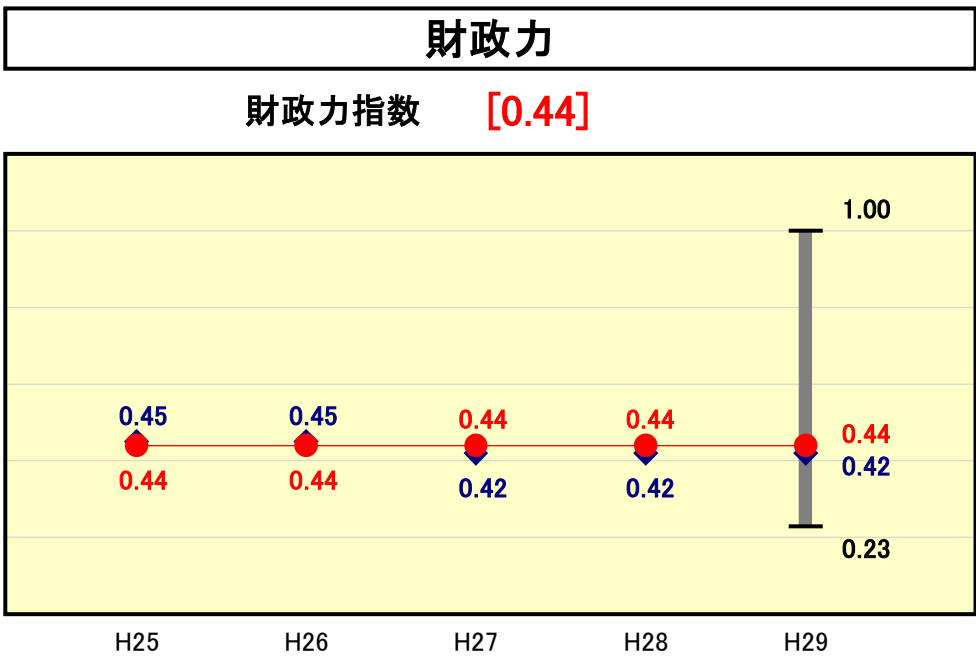
人口千人当たりの職員数は、年々微増の傾向にあるが、いずれも類似団体の平均値を下回っている。今後も定員管理適正化により退職者に対し新規採用者数の抑制を図るとともに、組織や事務作業の見直しを進めていく。行政需要に適切に対応できる効率的な組織運営に向け、職員数の適正化に努める。



類似団体内順位 31/35
全国市平均 99.1
全国町村平均 96.4

ラスパイレス指数の分析欄

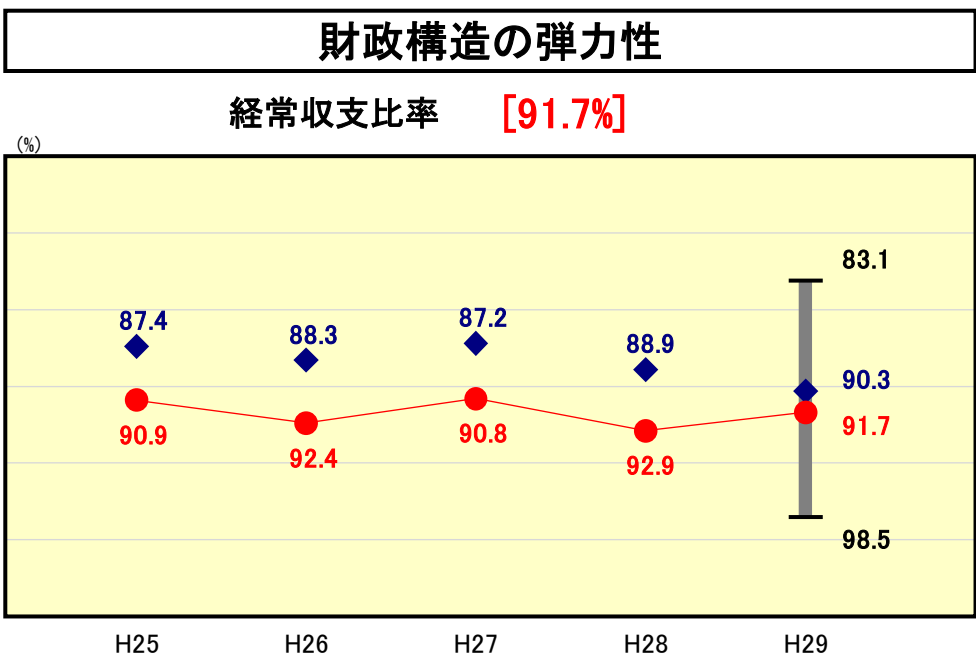
ラスパイレス指数は、平成26年度以降年々増加している。これまでの人件費削減の取り組みとしては、退職時の特別昇給の廃止、退職手当の引き下げ、特殊勤務手当、選挙時以外の管理職特別手当の廃止などの給与制度の見直しによって人件費の削減に努めていた。なお、29年度の数値については、現時点で調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。今後も、国家公務員給与水準や本市の財政状況を踏まえ、適正な給与制度の運営、定員管理の適正化とあわせて人件費の削減に努めていく。



類似団体内順位 11/35
全国平均 0.51
栃木県平均 0.73

財政力指数の分析欄

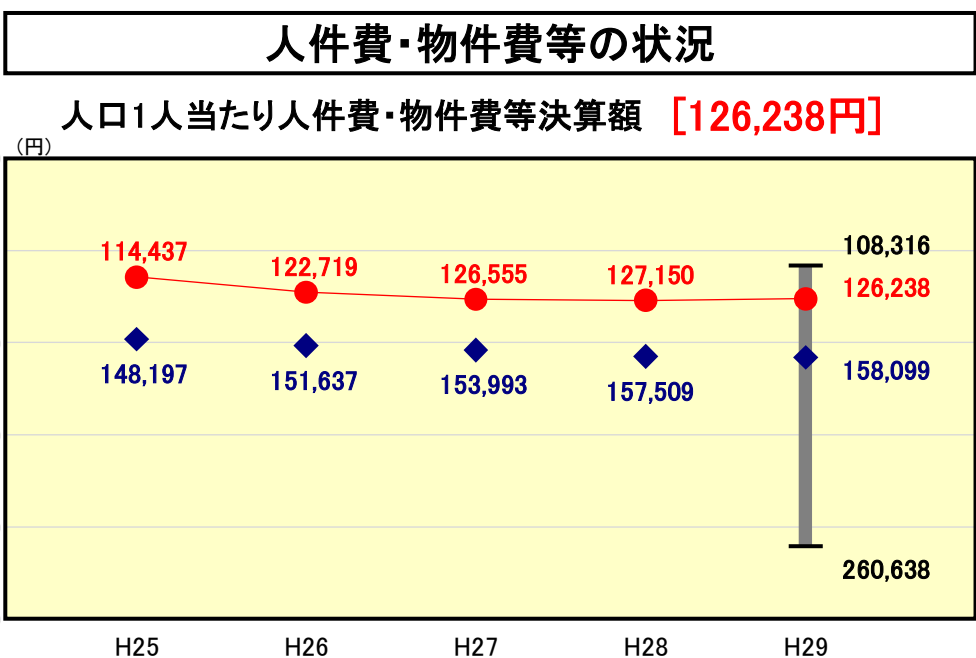
財政力指数は、近年は0.44と一定である。本市では、人口減少、高齢化が進んでいるため、自主財源の確保が困難な状態になっている。そのため、税収の増加が重要な課題となっており、企業誘致や定住促進を重点施策とすることで自主財源の増加を図る。また、人件費削減のため定員管理計画の実施、公共施設の統廃合、指定管理者制度等による業務の民間委託の推進など歳出削減を図るとともに、財政基盤の強化に取り組んでいる。



類似団体内順位 25/35
全国平均 92.8
栃木県平均 91.1

経常収支比率の分析欄

経常収支比率は、90～92%台で推移しており、平成29年度は前年度決算と比較すると1.2%の減となった。歳入においては、普通交付税が減額となったが、地方税や地方消費税交付金が増額したことから、全体的に経常一般財源が増加した。また、歳出については人件費の減、公債費の減により義務的経費が減少となった。昨年度と比べ若干の改善は見られるが、類似団体の平均を上回る状況は続いている。今後も引き続き経常経費の削減、財源の確保に努め、財政構造の弾力性の改善を図る。



類似団体内順位 4/35
全国平均 131,654
栃木県平均 114,057

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

平成29年度は、昨年度に比べ僅かに減額となった。人件費については、若年層の増により職員の階級構成が変化したため全体的な減額となった。また、物件費については、旅費、役務費、備品購入費の減により全体的な減となった。今後も人員削減が進むため、人件費は削減される見込みである。物件費に関しても、経常経費を中心に削減に努めていく。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

栃木県那須烏山市

経常収支比率の分析

人	27,161	人(H30.1.1現在)	-	%
うち日本人	26,904	人(H30.1.1現在)	-	%
面積	174.35	km ²		
歳入総額	12,317,456	千円	実質赤字比率	
歳出総額	11,682,249	千円	連結実質赤字比率	
実質収支	574,363	千円	実質公債費比率	7.1%
標準財政規模	8,333,004	千円	将来負担比率	8.9%
地方債現在高	12,443,095	千円		
			市町村類型	H25 I-O H26 I-O H27 I-O
			(年度毎)	H28 I-O H29 I-O

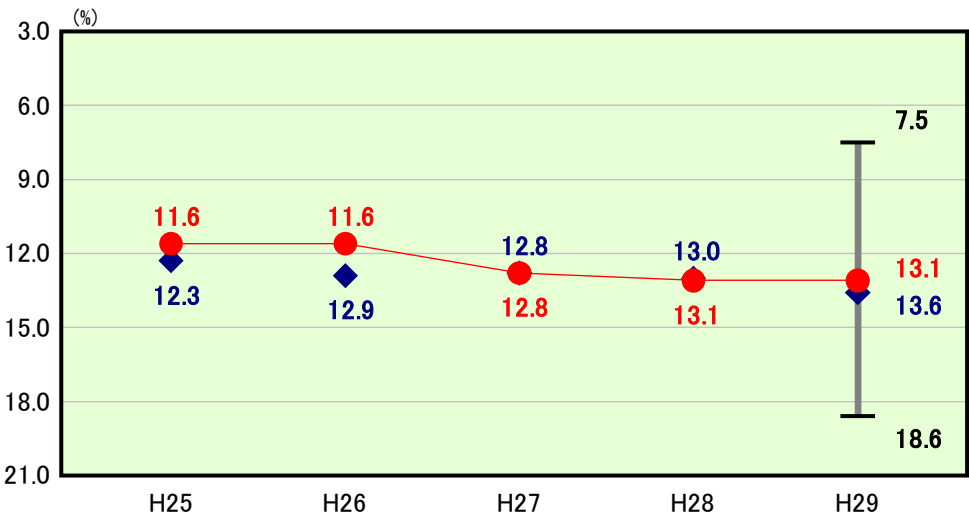
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



物件費

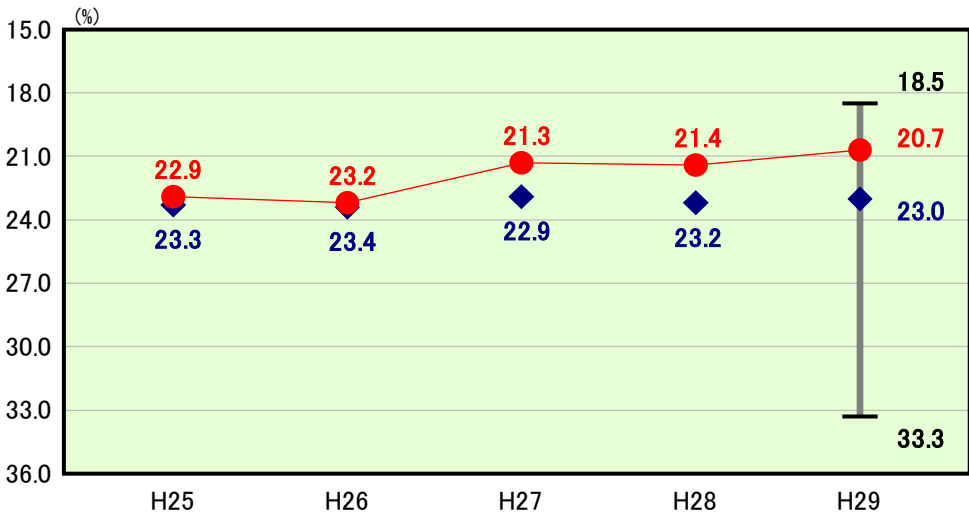


類似団体内順位 14/35 全国平均 14.5 栃木県平均 16.6

物件費の分析欄

物件費については、行財政集中改革プランに基づきコスト削減に努めており、平成26年度まで類似団体の平均値より低い水準にあったものの、平成27年度以降はスクールバスの拡充による運行業務委託料の増により28年度に続き29年度も13.1%となった。今後は、行政改革大綱に基づき、職員のコスト削減に対する意識を徹底する。

人件費

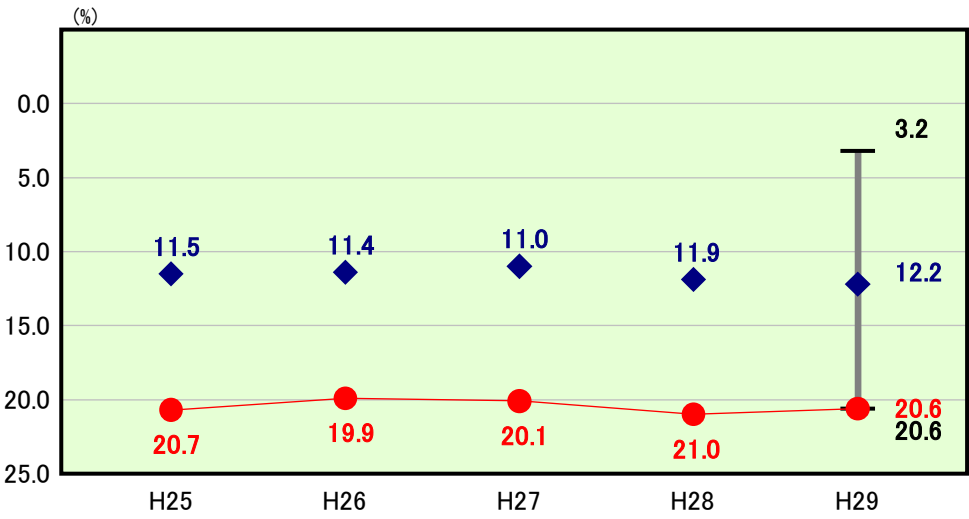


類似団体内順位 7/35 全国平均 25.6 栃木県平均 24.9

人件費の分析欄

平成29年度は、前年度比0.7%の減となり、20.7%という結果になった。計画的な職員採用により、近年は20%台を推移しており、類似団体平均と比較しても低い水準で推移している。今後も、平成30年に策定した定員適正化計画に基づき、施設の統廃合や指定管理者制度の導入を進めながら、人件費の抑制に努める。

補助費等

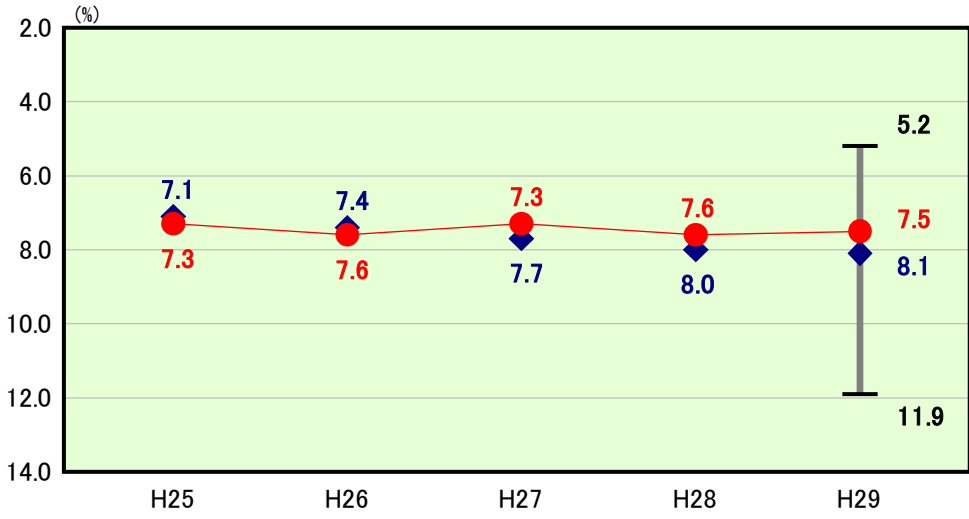


類似団体内順位 35/35 全国平均 10.1 栃木県平均 8.4

補助費等の分析欄

補助費等については、商工関係、総務関係の補助金が増加したため補助費全体の金額は昨年度に比べ増加したが、決算全体に対しての補助費の割合としては減少した。今後は、ごみ処理、し尿処理、消防業務、病院事業など南那須広域行政事務組合に対する負担金が増加することが想定される。類似団体平均を大きく上回る数値で推移しているため、可能な限りの削減に努める。

扶助費

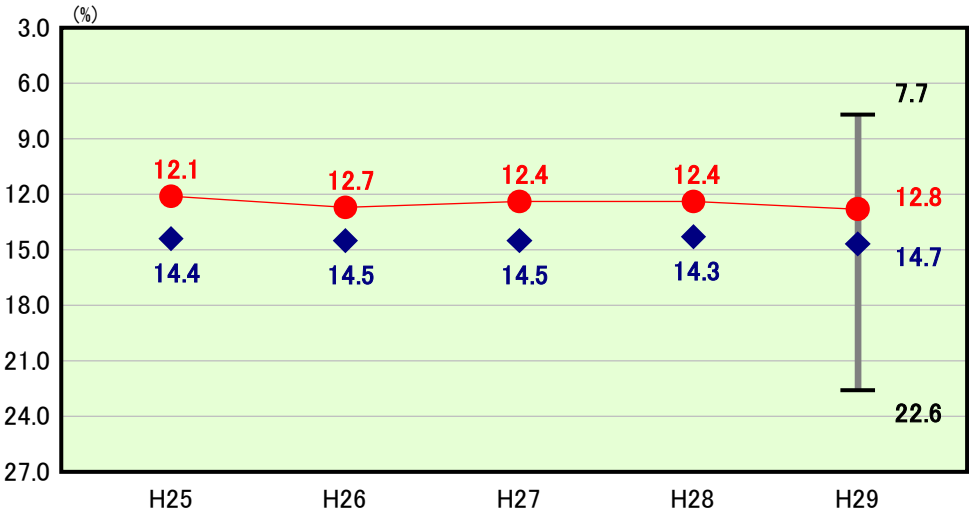


類似団体内順位 15/35 全国平均 12.4 栃木県平均 11.9

扶助費の分析欄

扶助費は、主に社会福祉費や児童福祉費が減少したため、昨年度と比べ全体的に減少している。また、平成27年度以降は毎年類似団体平均を下回っている。今後は、資格審査の適正化や単独事業の見直しを図るなど財政を圧迫することがないよう、可能な限り経費の削減に努める。

その他

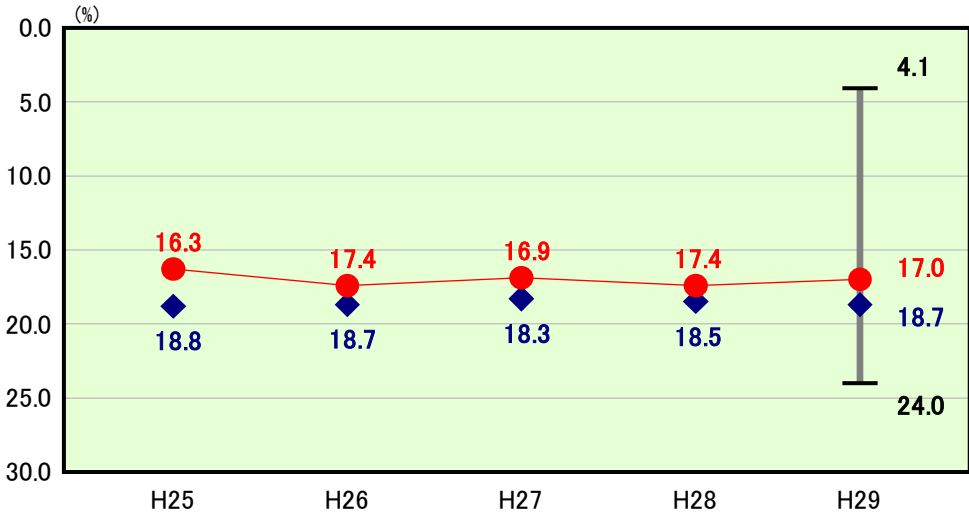


類似団体内順位 11/35 全国平均 13.3 栃木県平均 14.2

その他の分析欄

その他の数値について、近年は12%台で推移しているが、介護保険事業、下水道事業など他会計への繰出金の割合が大きいことが要因であると考えられる。今後は、公営企業会計はアウトソーシングを進め、経費を削減するとともに独立採算の原則に立ち返った運営の健全化を図り、国民健康保険事業は保険料の適正化を図るなどにより普通会計の負担の軽減に努める。

公債費

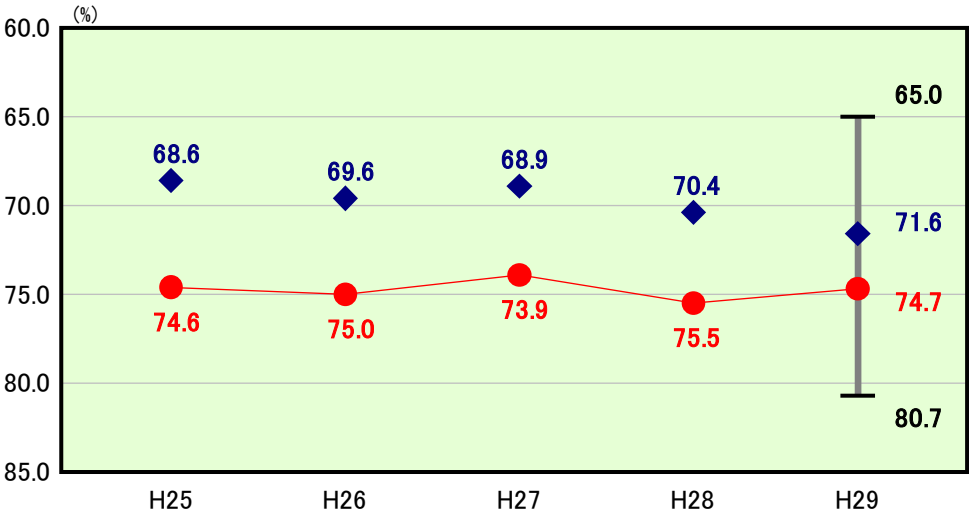


類似団体内順位 9/35 全国平均 16.9 栃木県平均 15.1

公債費の分析欄

公債費については行政改革集中プランにより地方債発行を償還額以内としたことで全体の償還額が減少したこと、また、補償金免除繰上償還制度の活用により低利な借り入れへの借換を行ったことにより年々減少しており、類似団体の平均値を下回っている。平成29年度は、合併特例債、辺地対策債の発行額が減少したため、前年度比0.4ポイント減となった。

公債費以外



類似団体内順位 25/35 全国平均 75.9 栃木県平均 76.0

公債費以外の分析欄

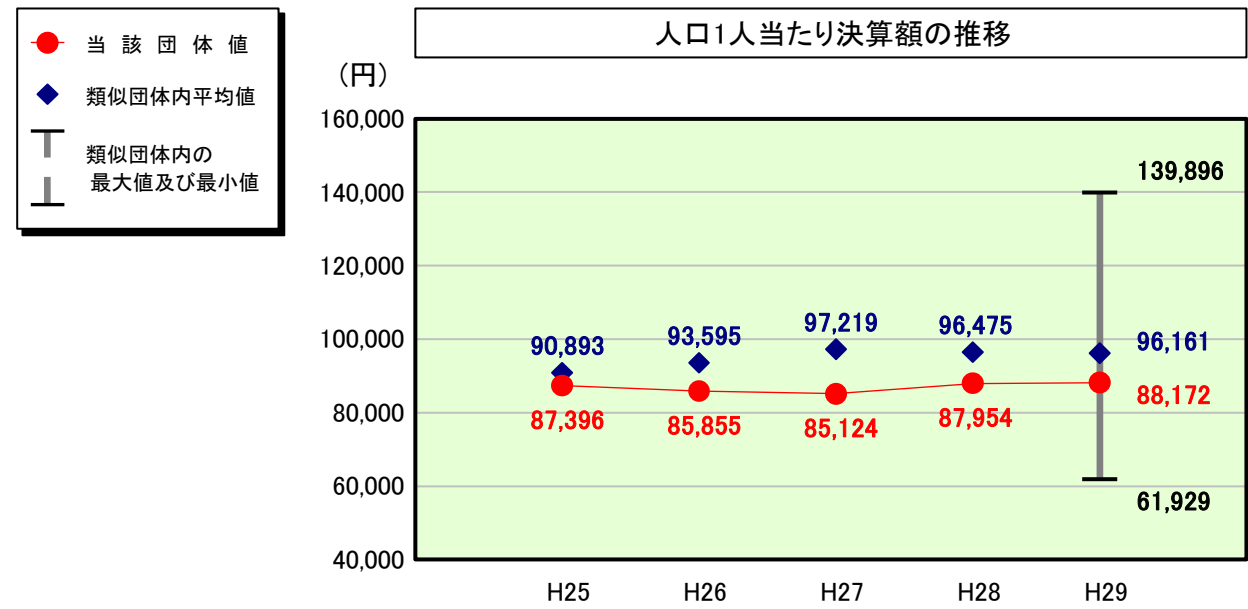
公債費以外は、類似団体と比較して平均値を大きく上回っており、これは広域行政事務組合への負担金が必要な要因となっている。広域行政事務組合への負担金は、ごみ処理、し尿処理、消防業務、病院事業など経常的な業務にかかる負担金であるため、今後も高い数値で推移すると考えられるが、負担金の精査を行うことで削減に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

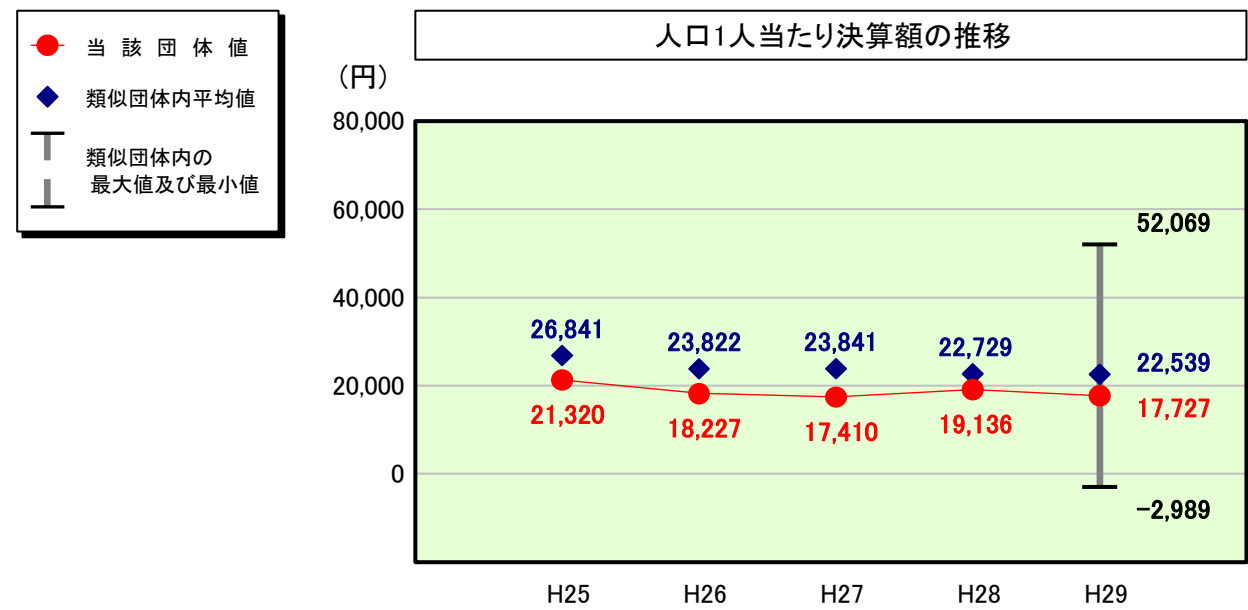
栃木県那須烏山市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析

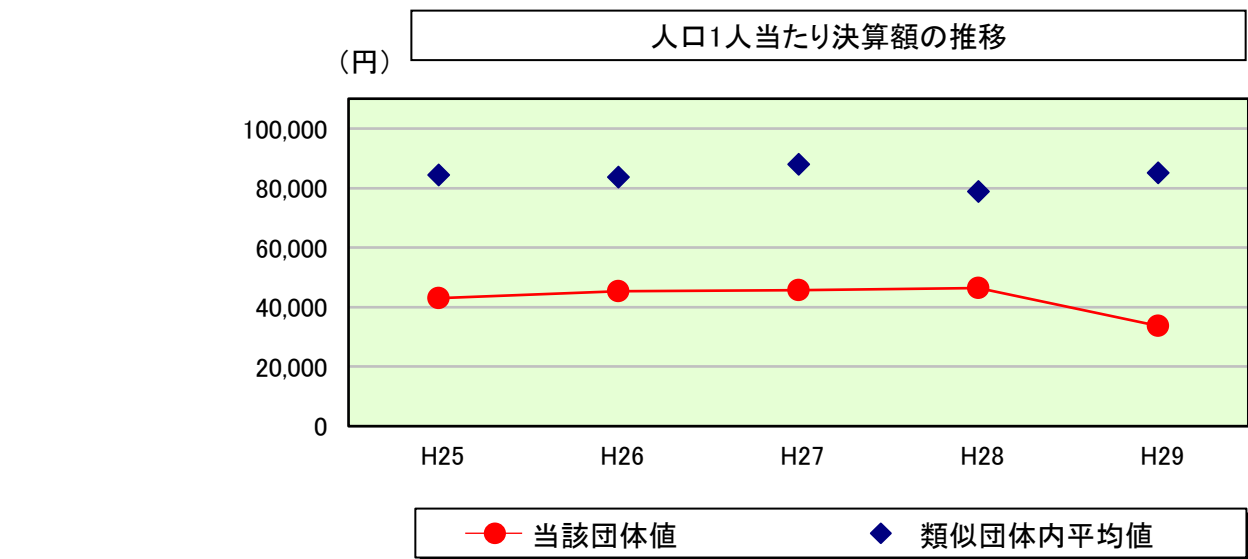


(注) 人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
(注) 参考については、地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点（平成31年1月末時点）において平成30年調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析



(参考) 普通建設事業費の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	1,872,300	68,933	82,371	▲ 16.3
賃金 (物件費)	189,162	6,964	6,066	14.8
一部事務組合負担金 (補助費等)	486,789	17,922	9,057	97.9
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	-	-	875	-
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	-	-	3,722	-
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	37,085	1,365	1,782	▲ 23.4
▲退職金	▲ 190,499	▲ 7,014	▲ 7,713	▲ 9.1
合計	2,394,837	88,172	96,161	▲ 8.3

参考

	当該団体	類似団体平均	対比 (差引)
人口1,000人当たり職員数 (人)	8.25	9.48	▲ 1.23
ラスパイレス指数	99.8	97.6	2.2

公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	1,433,317	52,771	62,678	▲ 15.8
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	19	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	247,664	9,118	17,584	▲ 48.1
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	231,390	8,519	3,772	125.8
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	11,422	421	765	▲ 45.0
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 5,000	▲ 184	▲ 2,998	▲ 93.9
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 1,437,297	▲ 52,918	▲ 59,283	▲ 10.7
合計	481,496	17,727	22,539	▲ 21.3

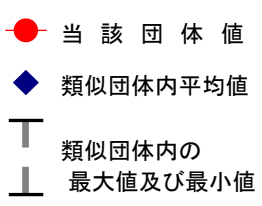
※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成29年度

栃木県那須烏山市

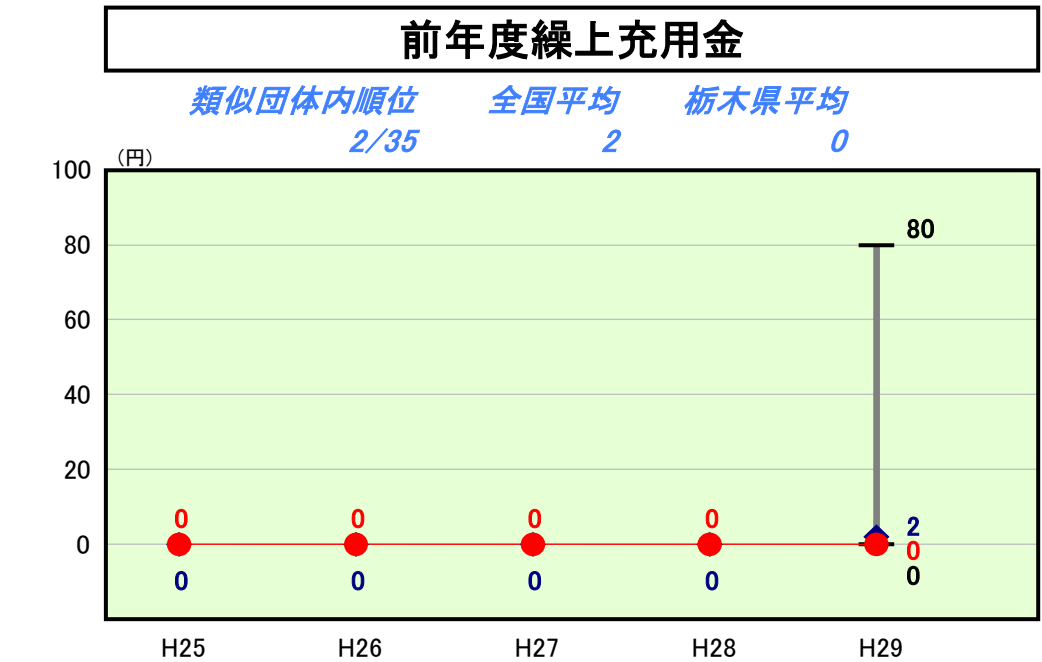
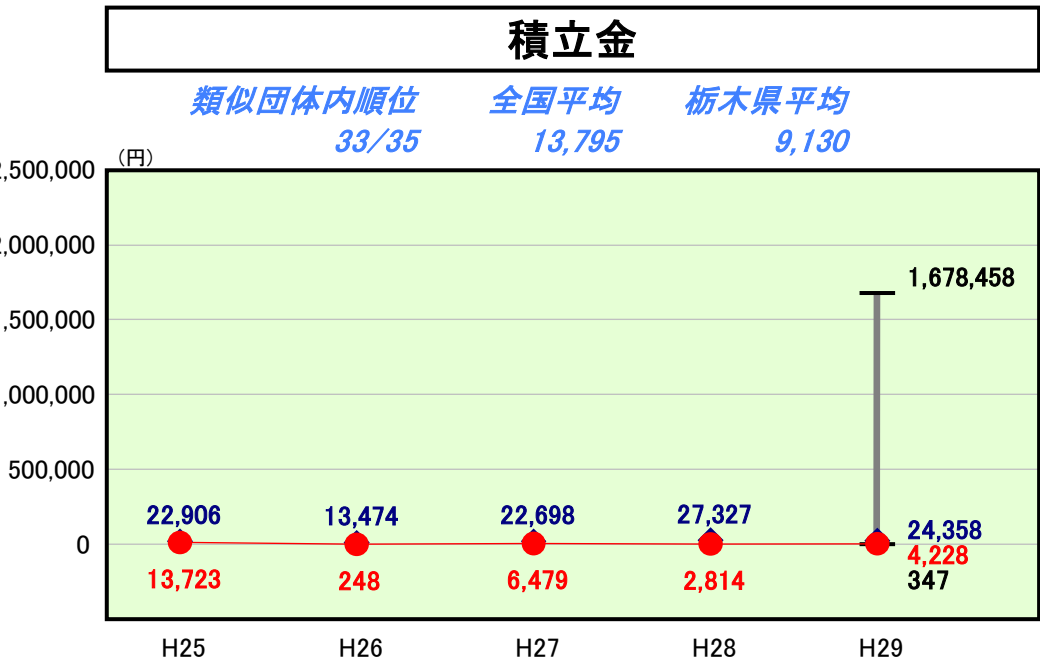
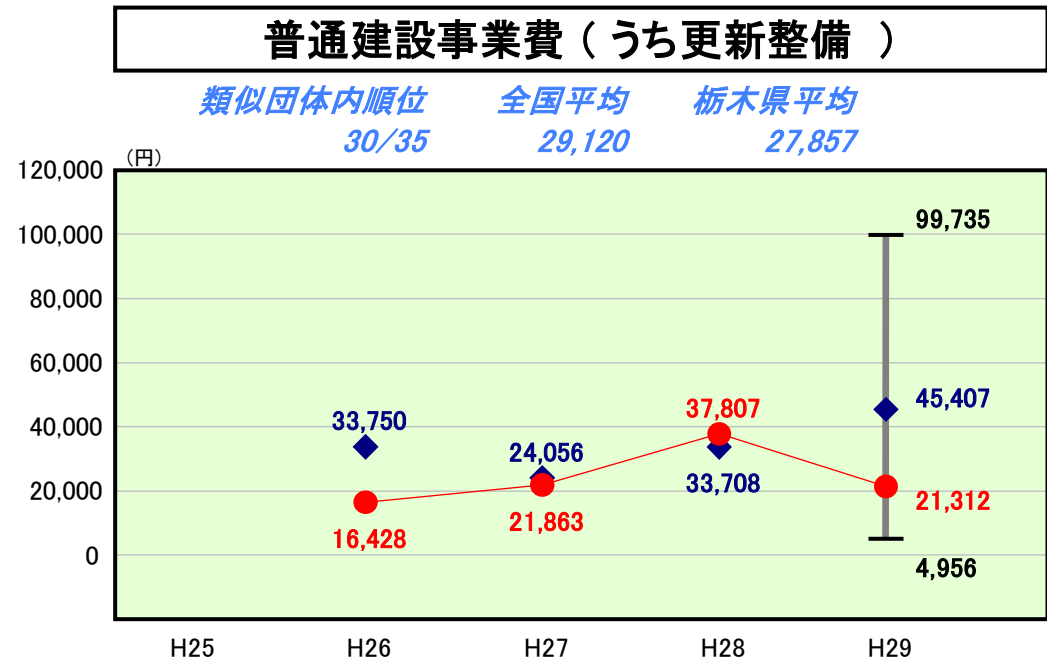
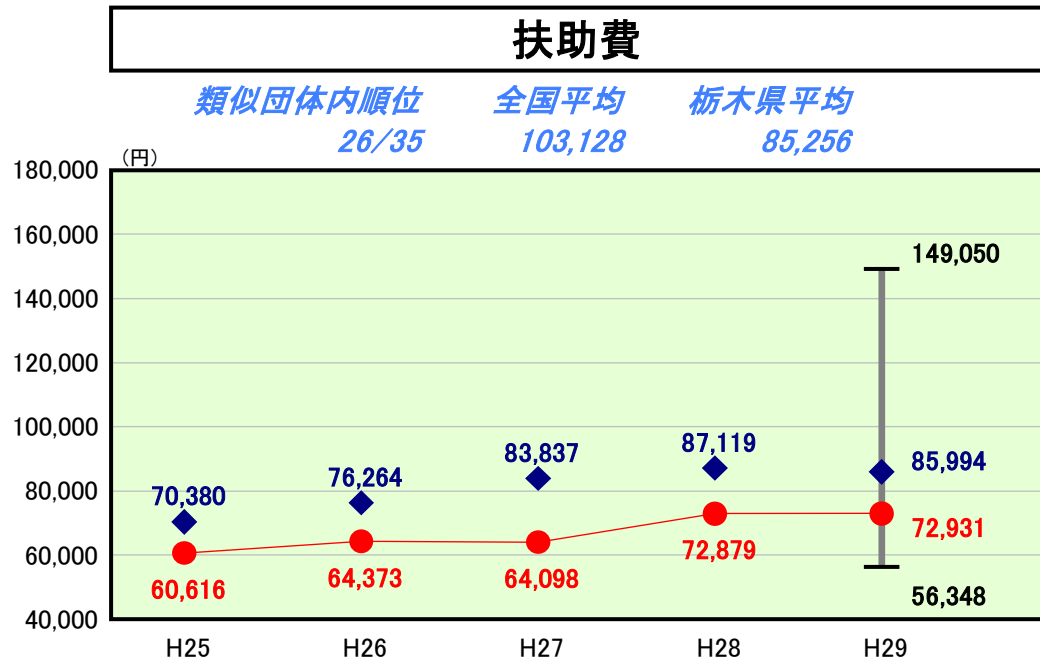
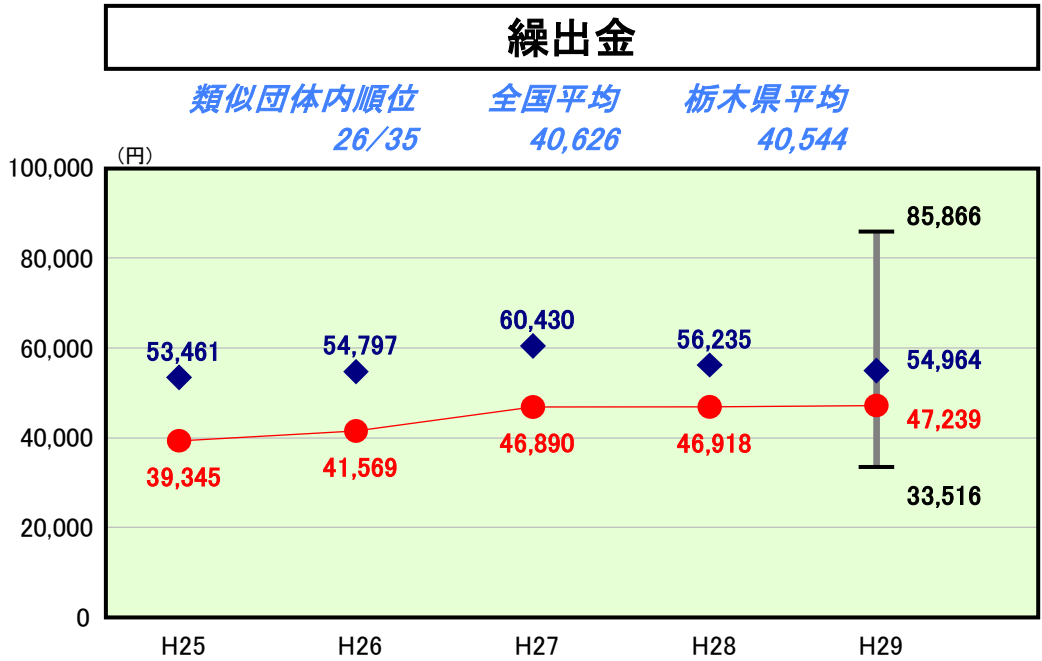
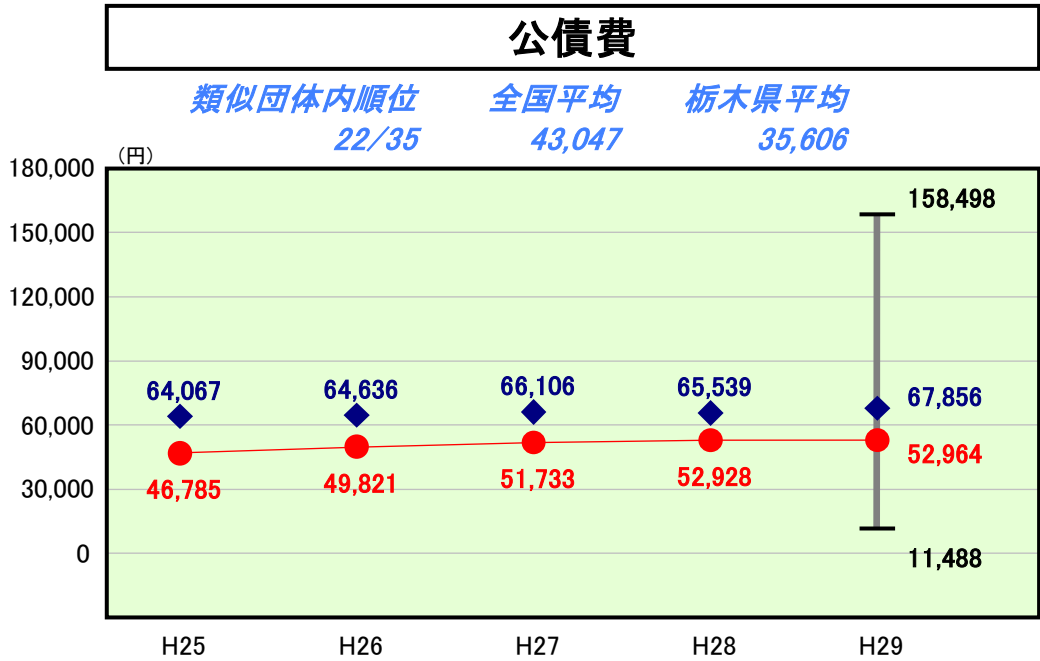
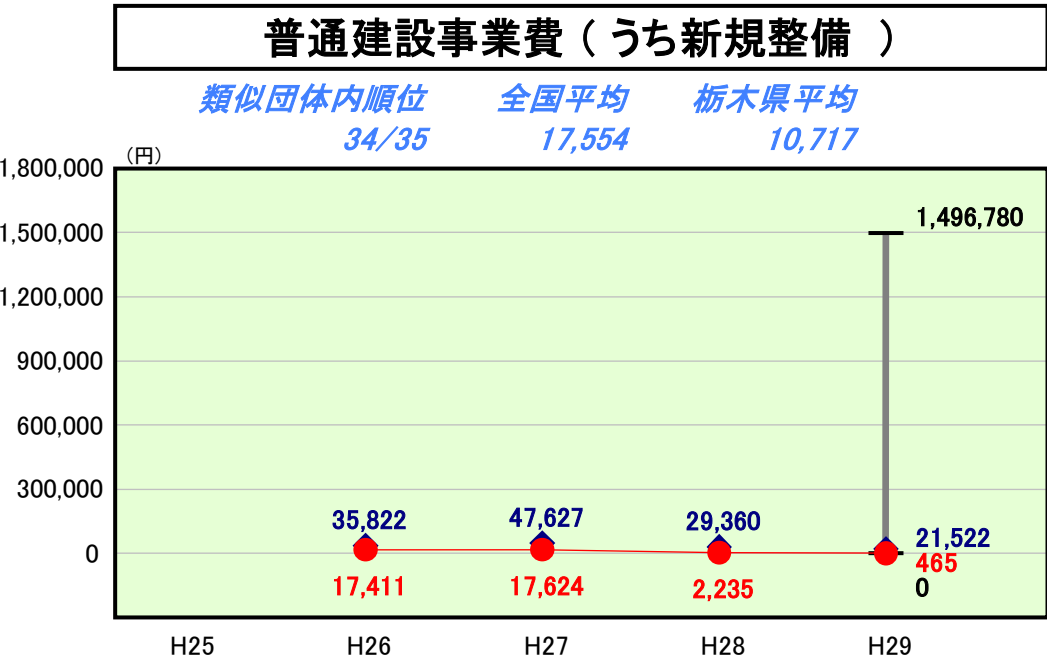
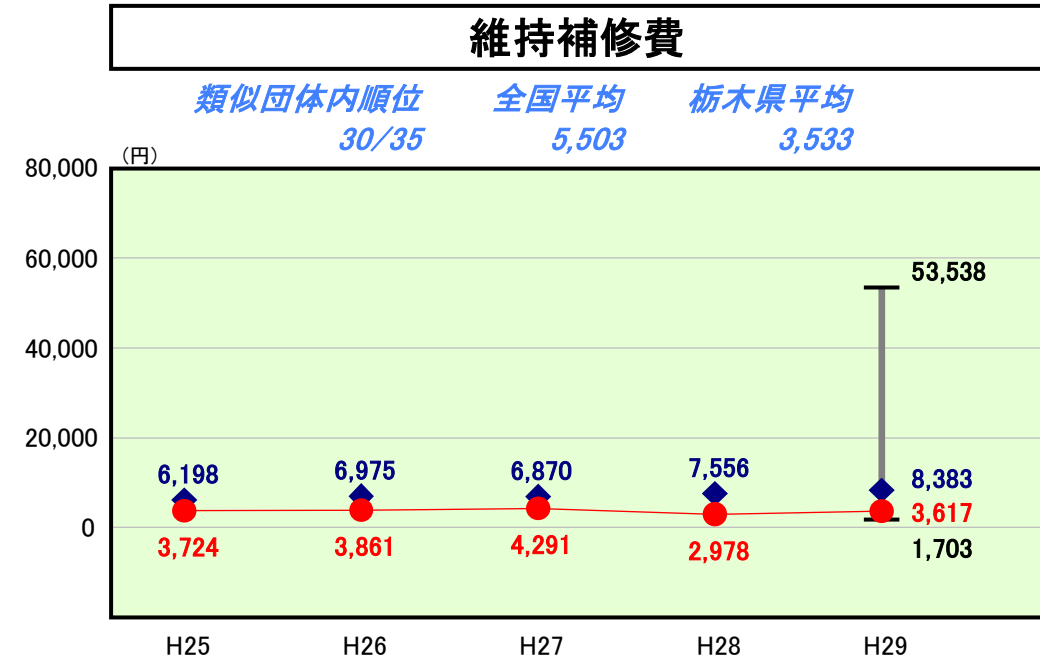
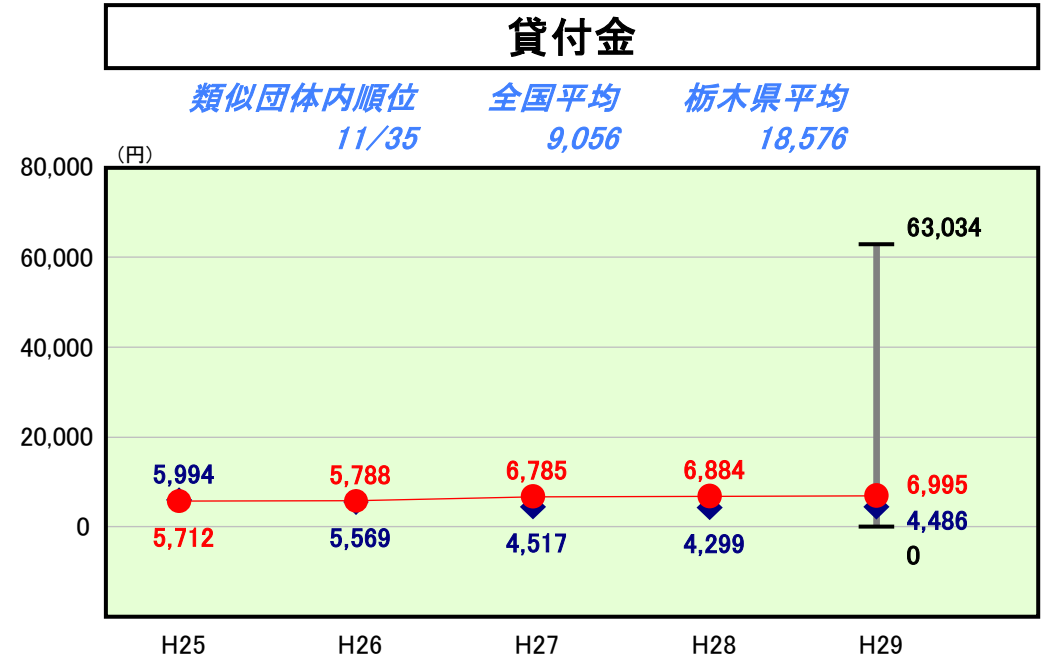
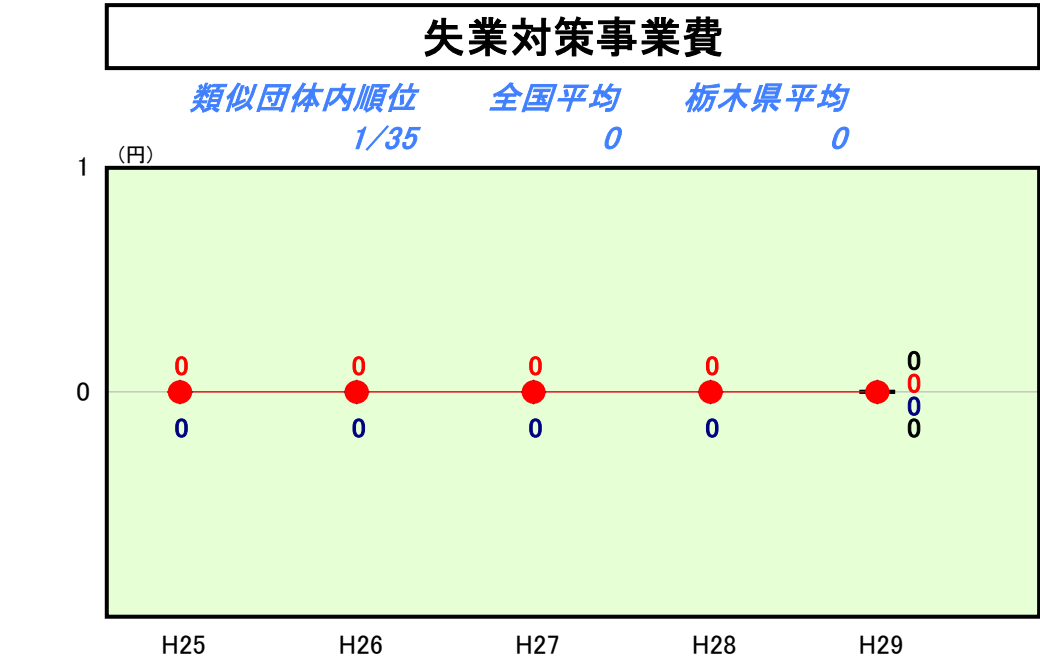
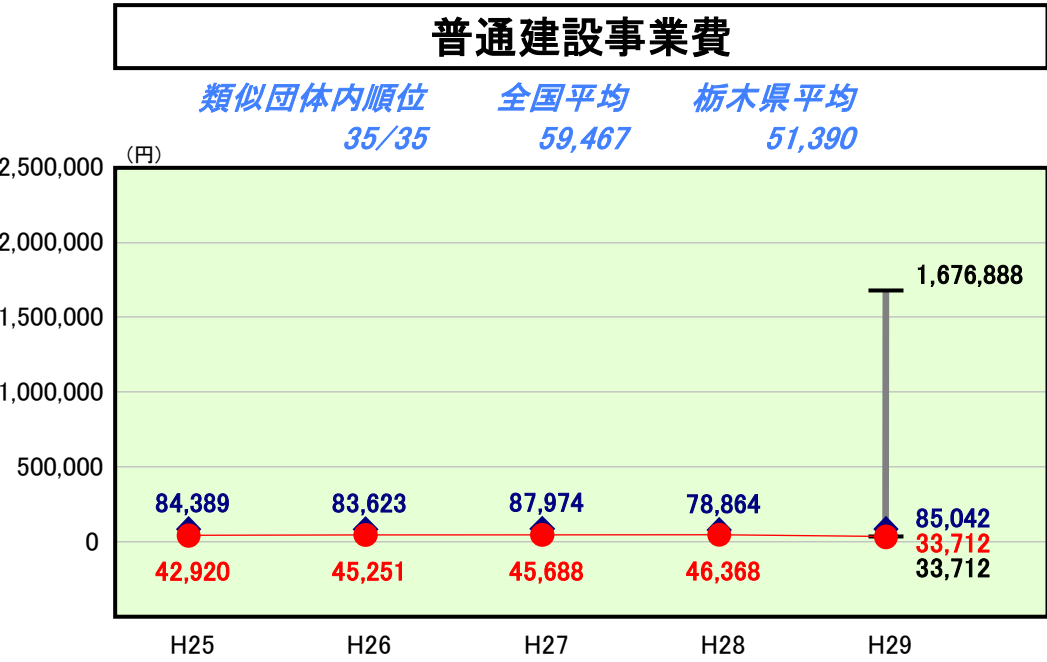
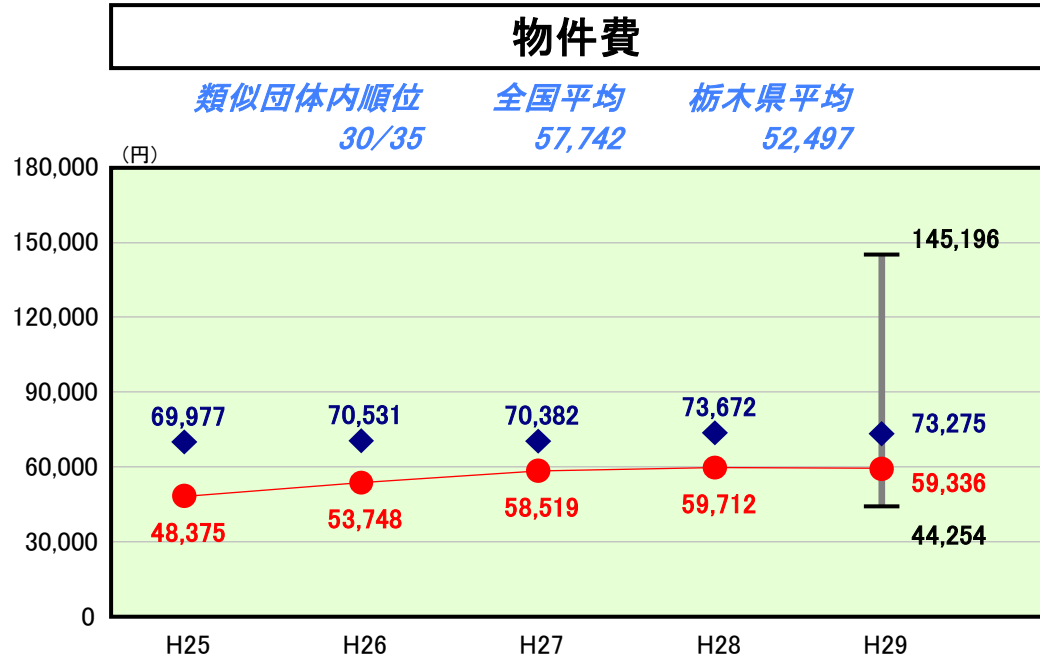
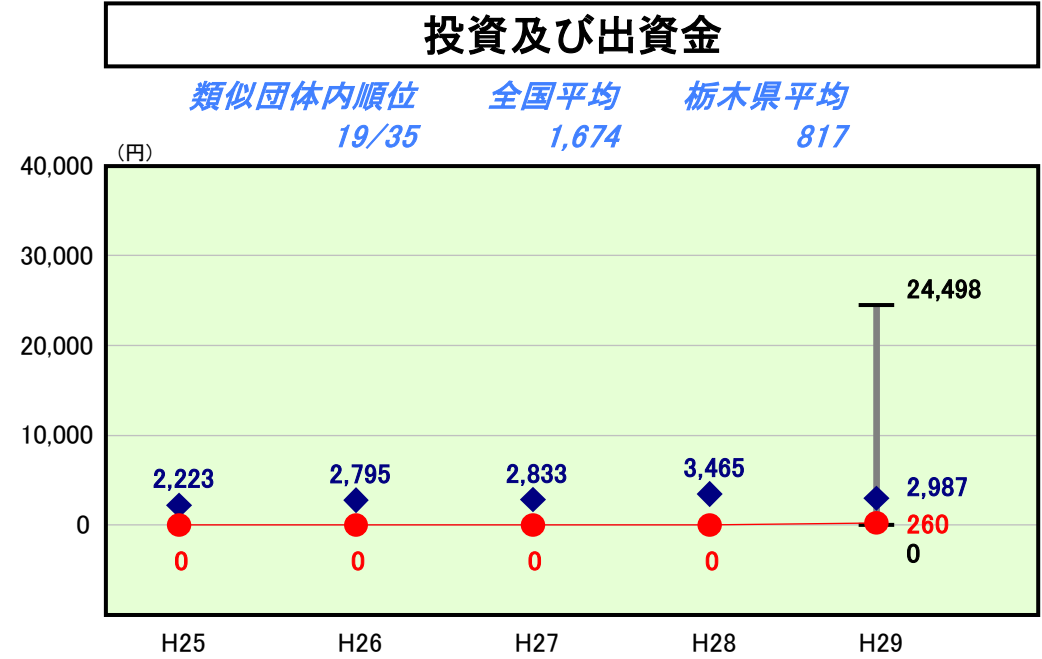
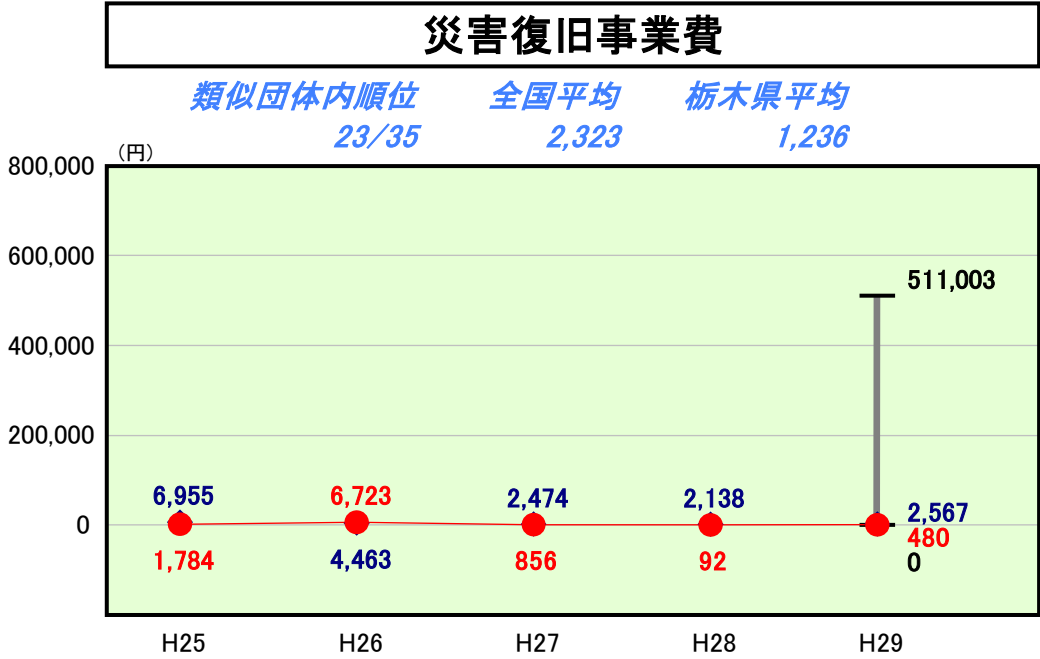
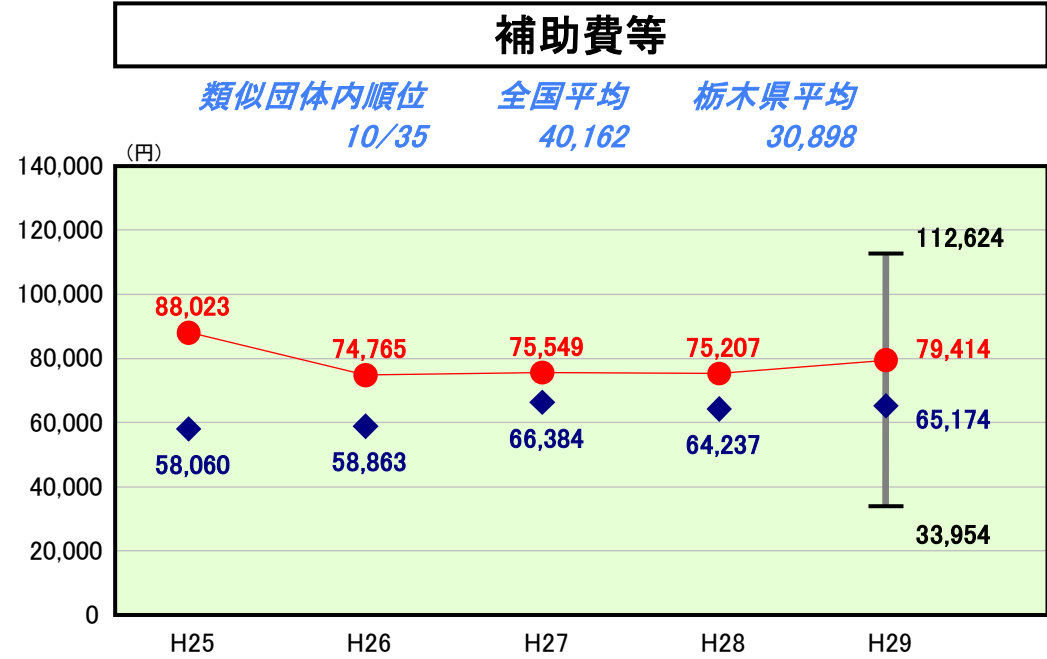
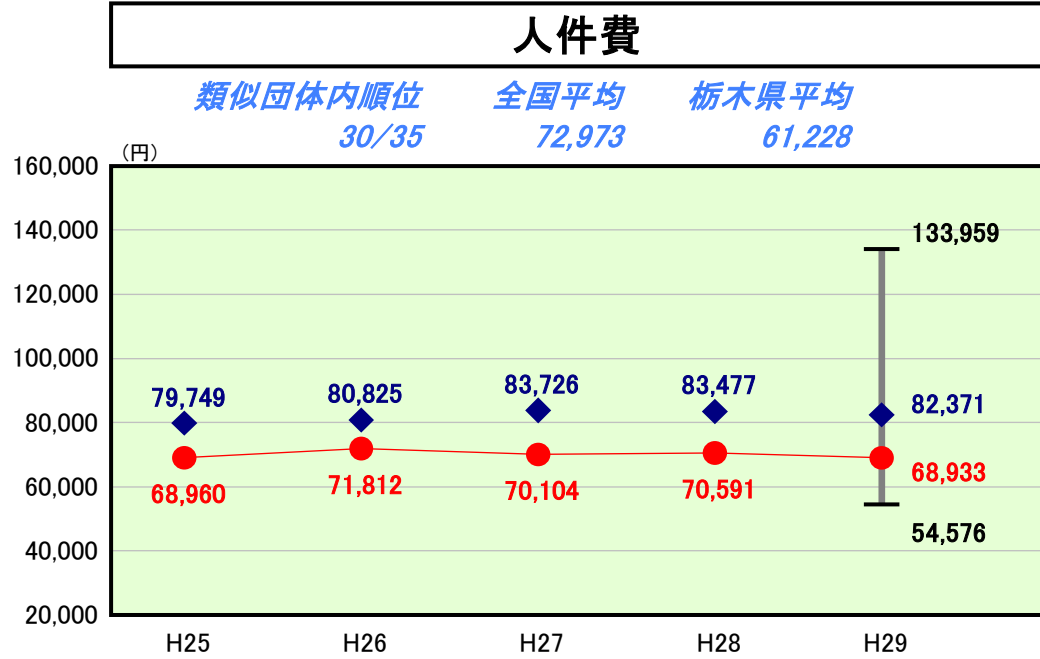
人	口	27,161	人(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%		
う	日	26,904	人(H30.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	%		
ち	本	174.35	km ²	実	質	公	債	費	比	率	7.1	%	
面	積										8.9	%	
歳入総額	12,317,456	千円		将	来	負	担	比	率				
歳出総額	11,682,249	千円		市	町	村	類	型		H25	I-O	H26	I-O
実質収支	574,363	千円		(	年	度	毎	)		H28	I-O	H29	I-O
標準財政規模	8,333,004	千円											
地方債現在高	12,443,095	千円											



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析欄

歳出決算総額は、1人あたり430.1千円となっている。

最も構成比の高い補助費等(18.4%)は、住民1人あたり79,414円で、類似団体平均と比較しても高い値で推移を続けている。これは、南那須広域行政事務組合への負担金の影響が大きく、廃棄物・し尿処理施設の更新や延命化のための維持補修費の増加が見込まれ、今後も住民1人あたりのコストは増加していくことが懸念される。また、公共施設の老朽化による延命経費が増大しており、普通建設事業費の更新整備については29年度に減少がみられたものの、今後再び増加することが見込まれる。

次いで構成比の高い扶助費(16.9%)は、少子高齢化の進行により増加の傾向にあり、今後も数値が増加していくことが予想される。

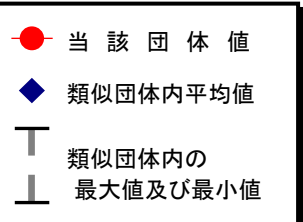
人件費(16.3%)については、近年は類似団体の平均を下回って推移している。29年度決算では人件費の減少が顕著であり、これは若年層の増による職員階級構成の変化が要因である。今後も、定員管理計画に基づいた計画的な職員採用に加え、時間外手当の抑制を進めることで適正な人員配置および人件費の縮減に努める。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成29年度

栃木県那須烏山市

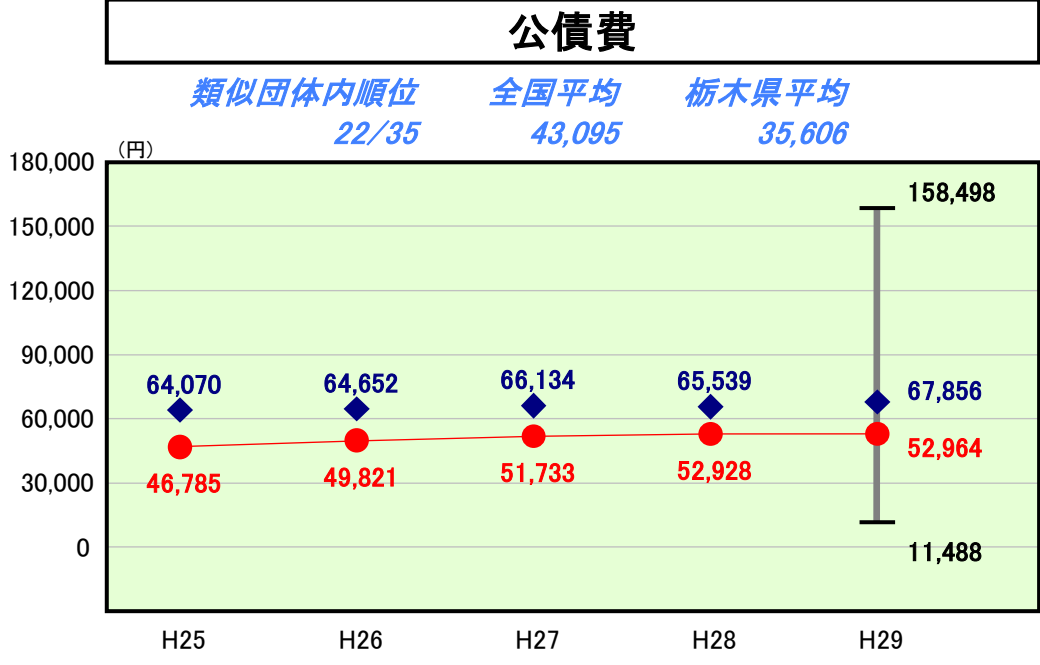
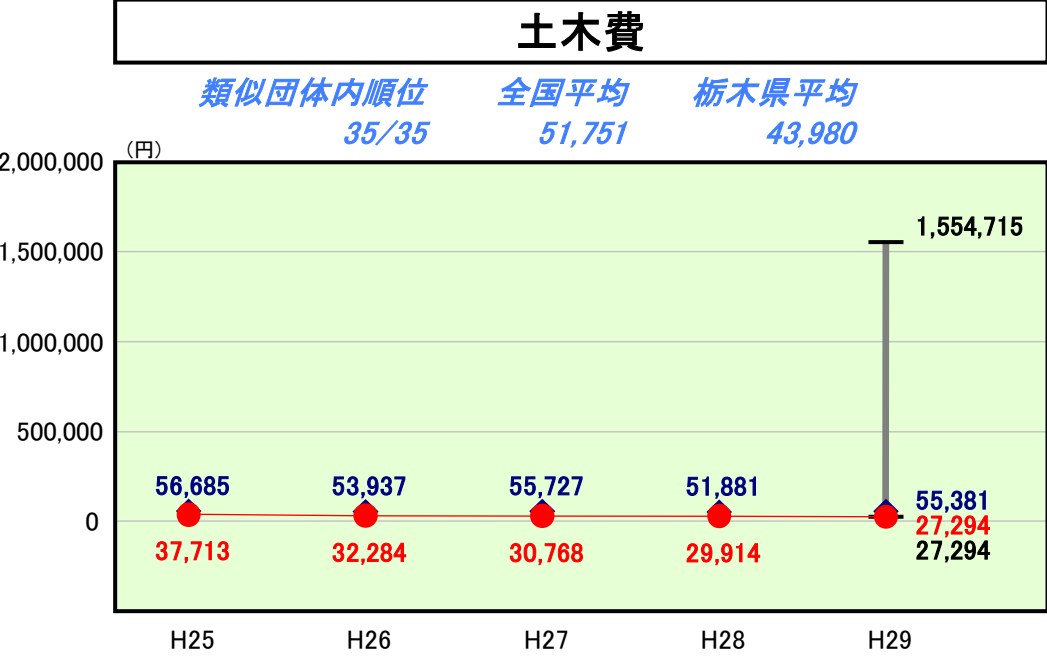
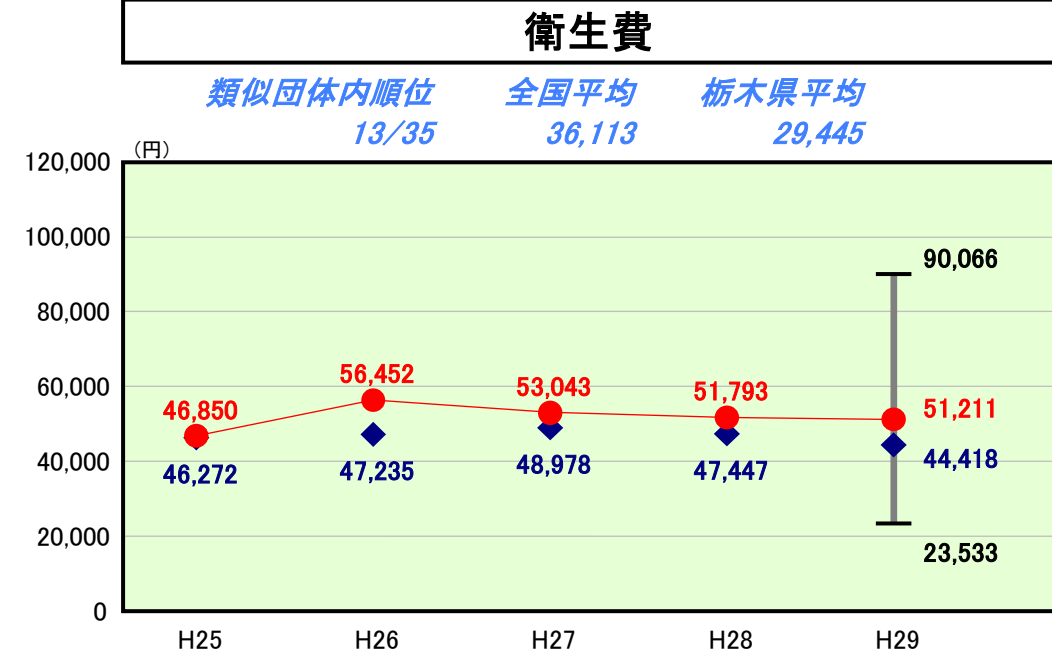
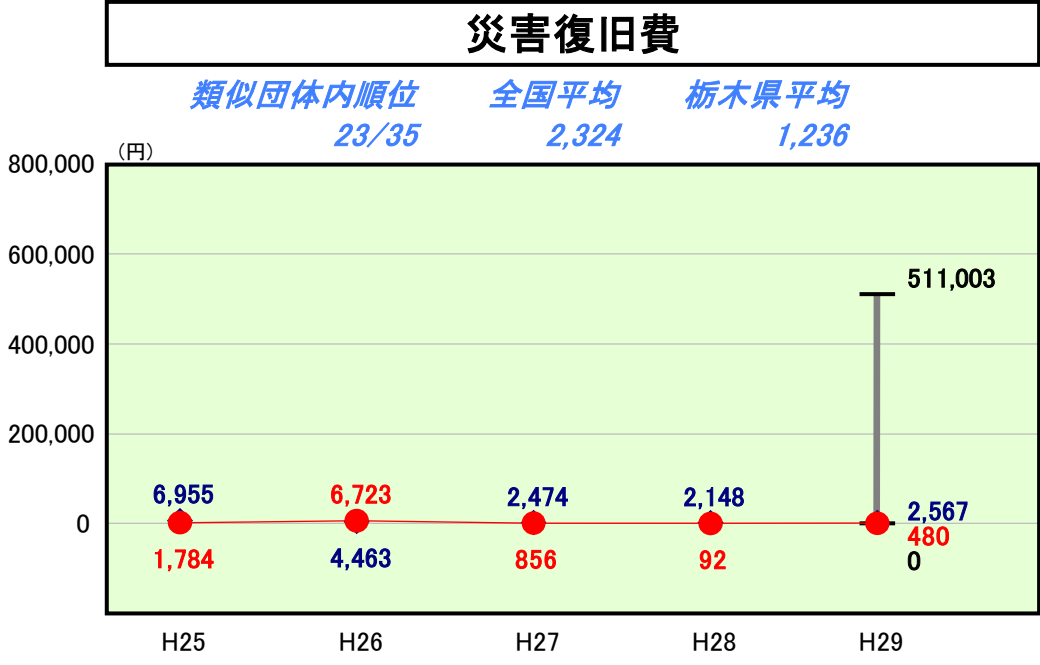
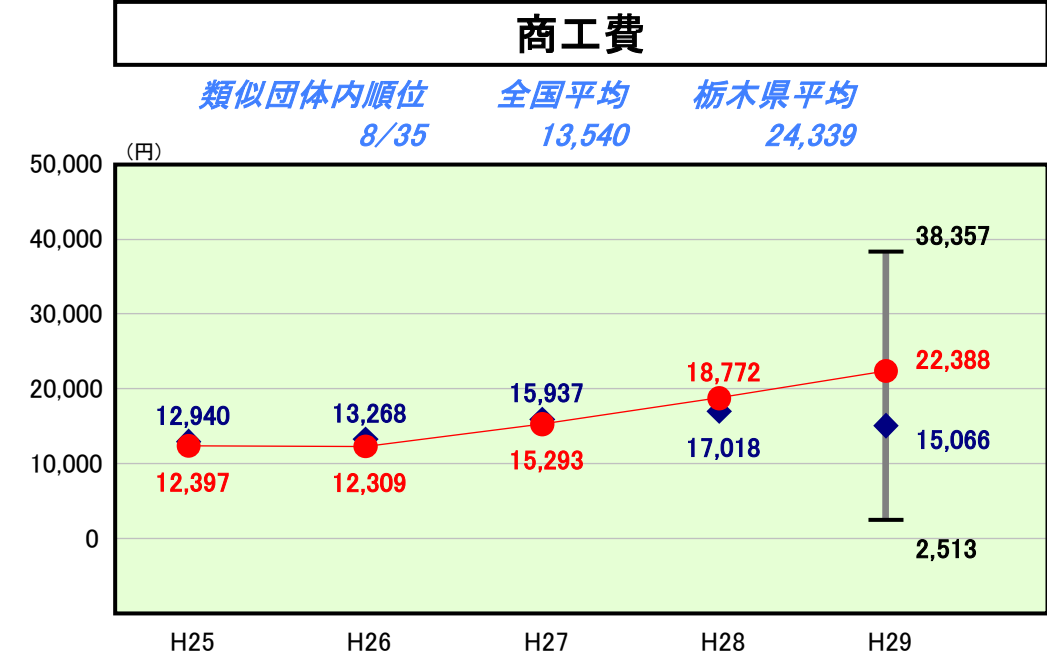
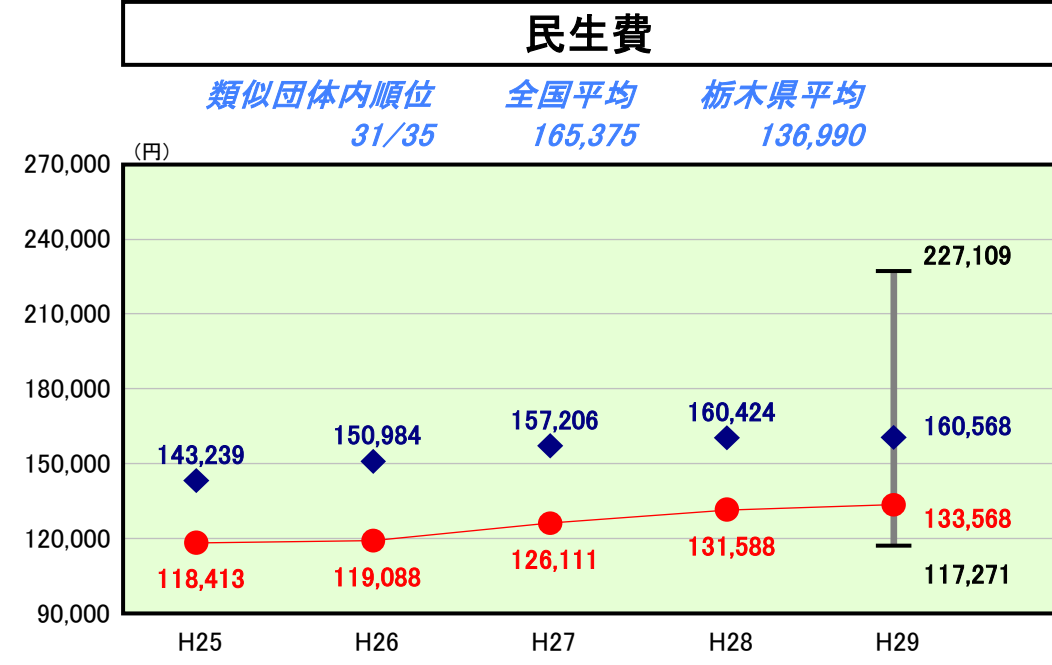
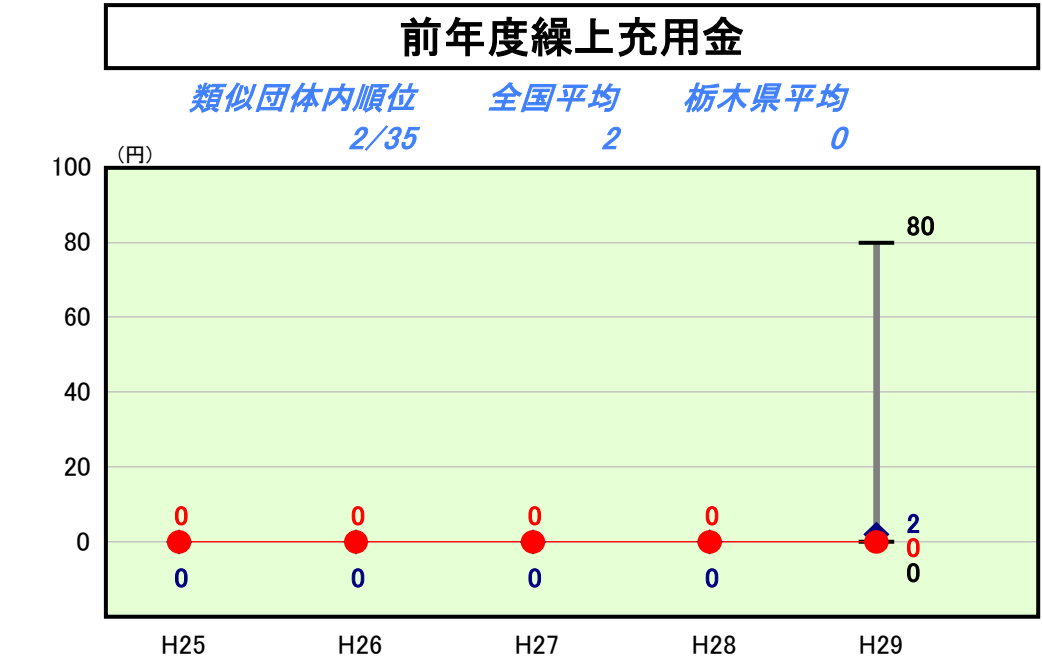
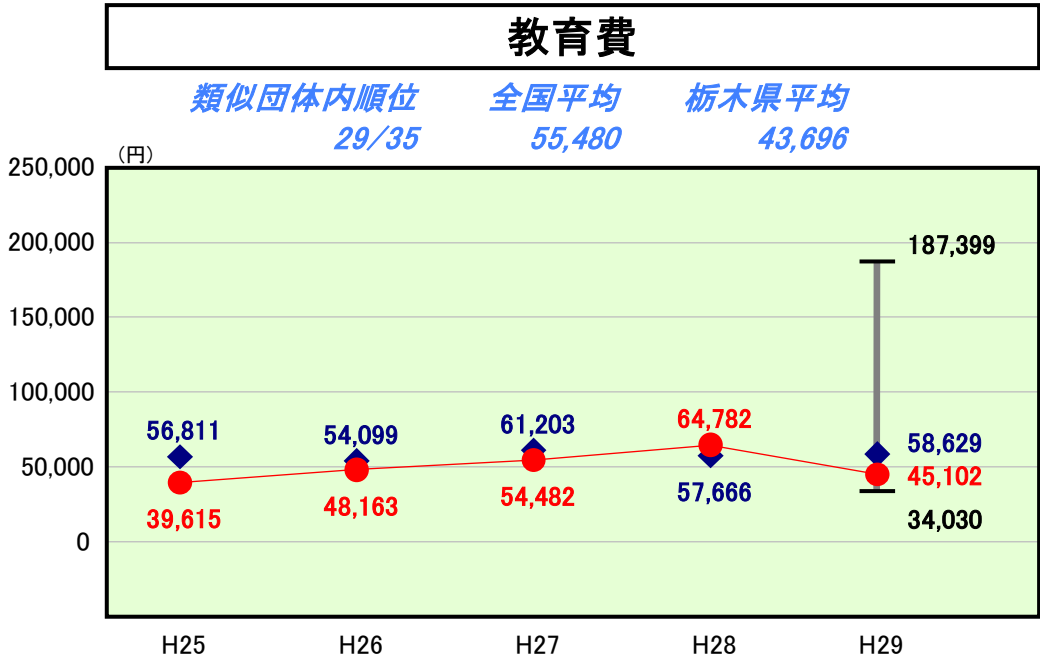
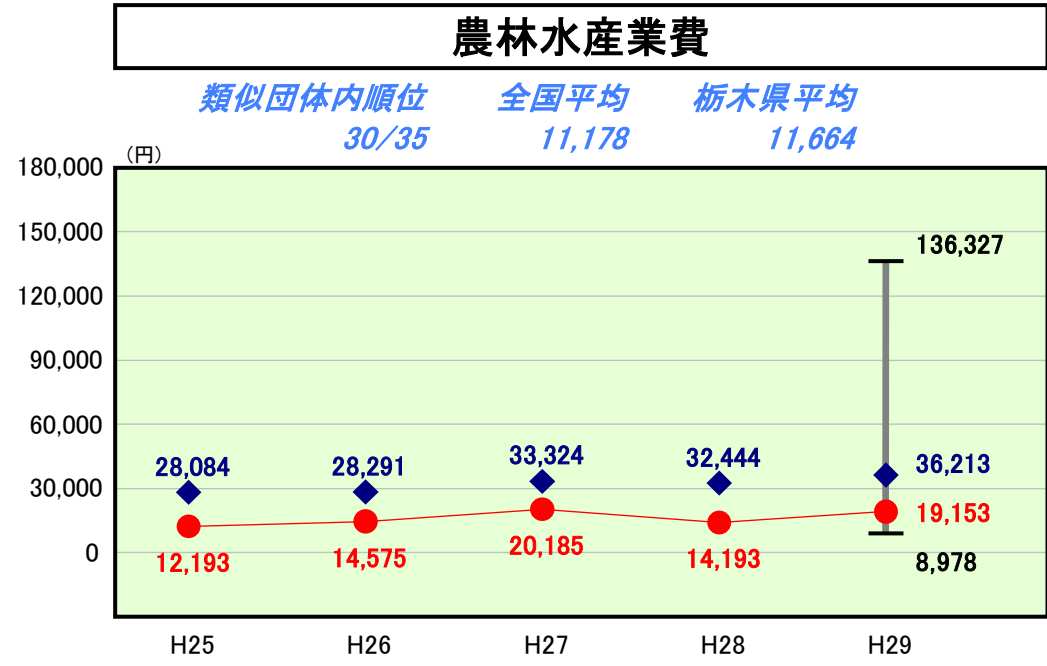
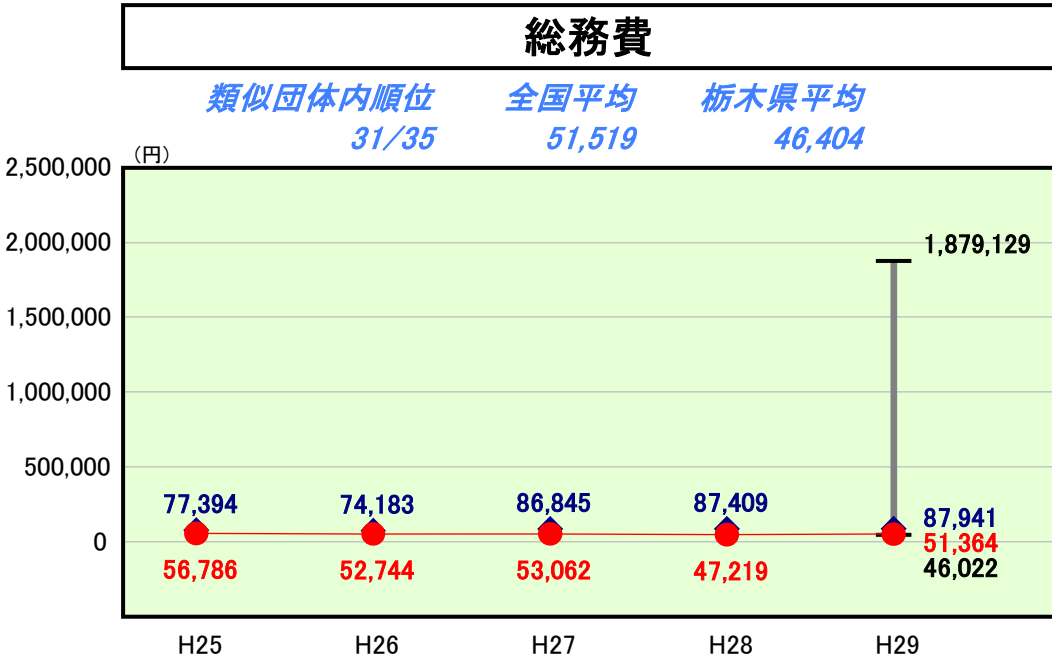
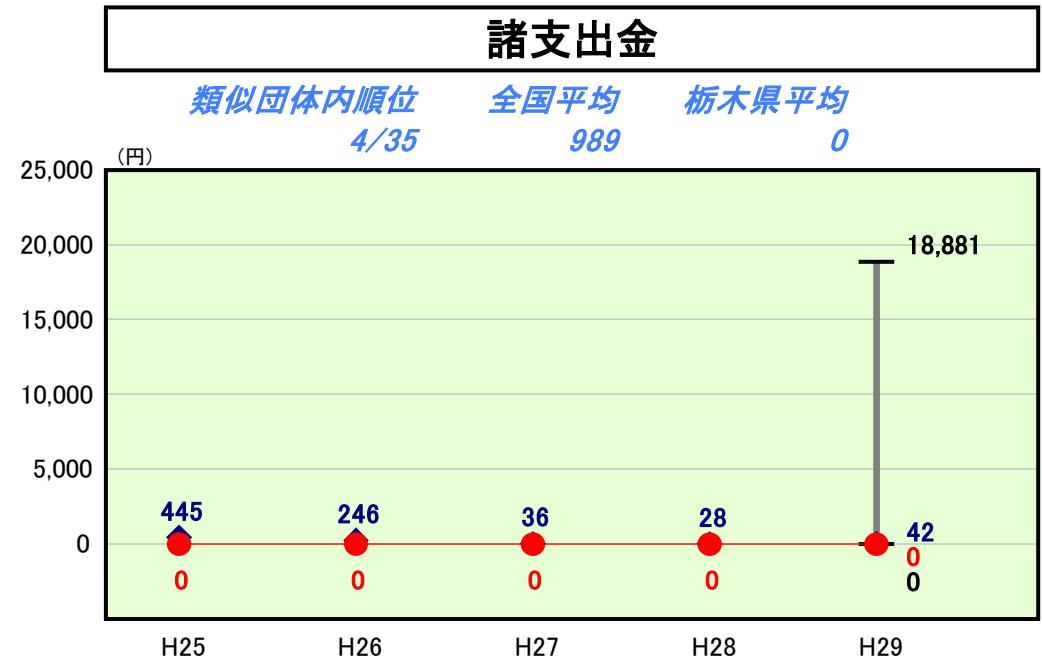
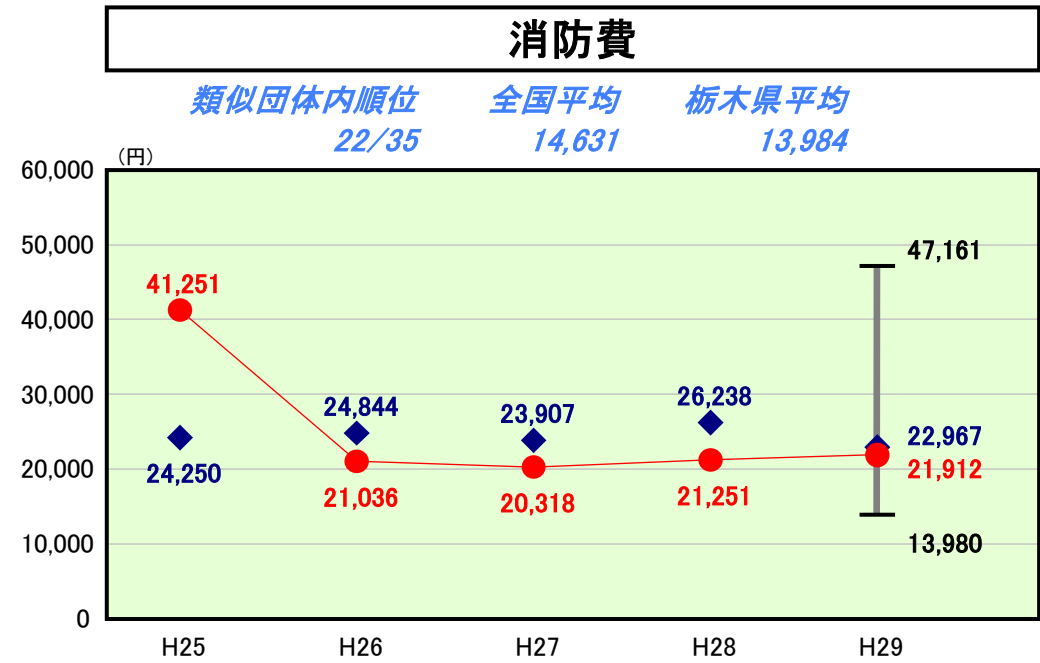
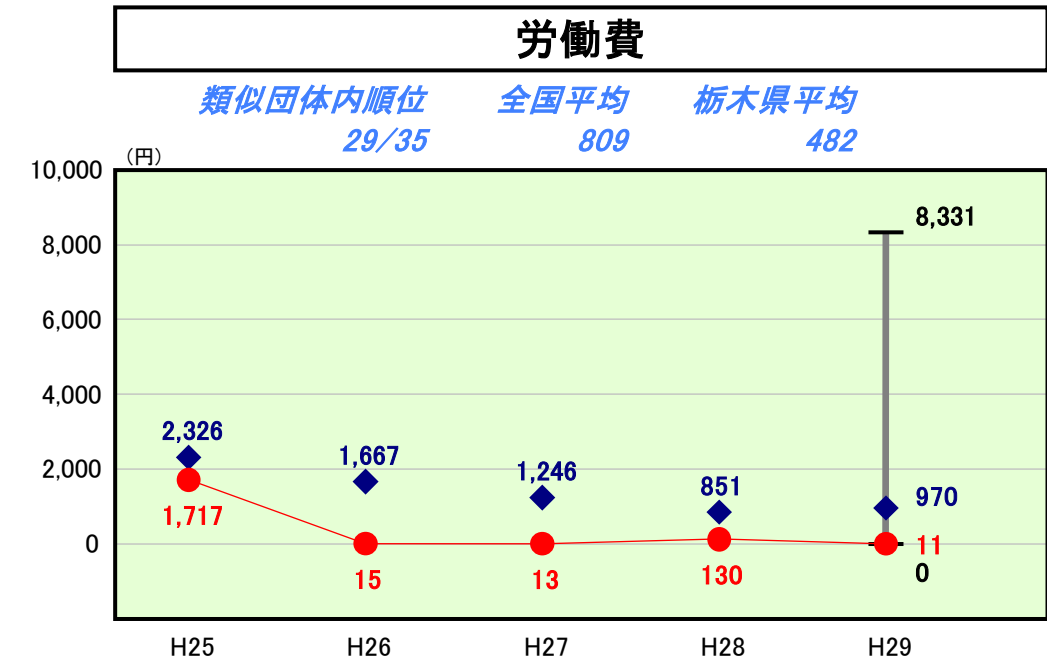
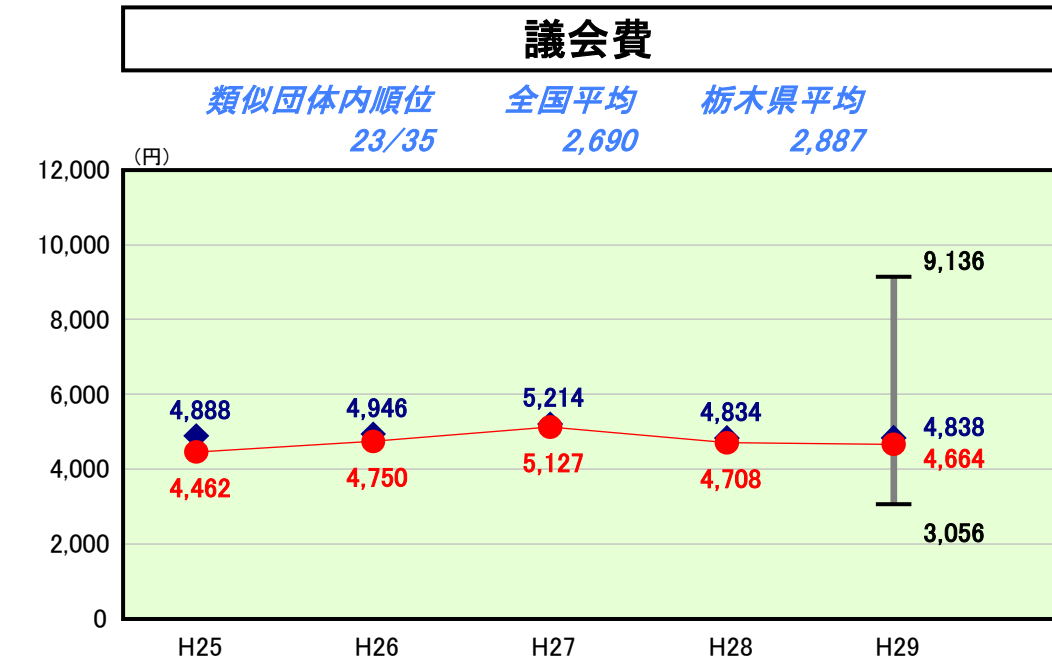
人	27,161	人(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%				
うち日本	26,904	人(H30.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率				
面積	174.35	km ²	実	質	公	債	費	比	率	7.1	%			
歳入総額	12,317,456	千円	将	来	負	担	比	率	8.9	%				
歳出総額	11,682,249	千円	市	町	村	類	型		H25	I-O	H26	I-O	H27	I-O
実質収支	574,363	千円	(	年	度	毎	)		H28	I-O	H29	I-O		
標準財政規模	8,333,004	千円												
地方債現在高	12,443,095	千円												



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析欄

目的別の分類で最も構成比の高い民生費は、1人あたり133,568円(31.0%)であり、児童福祉費、老人福祉費の増が要因となり、昨年度より増加した。類似団体平均の値を下回っているものの、平成14年度より年々増加している状況である。

平成29年度目的別決算において特徴的な点は、商工費の増加が顕著であり、類似団体平均を大きく上回っていることである。これは、市内の観光施設である山あけ会館の改修に係る施設整備費の増によるものであり、今後も他の観光施設の長寿命化に取り組むため、一定期間継続して増加していくものと思われる。

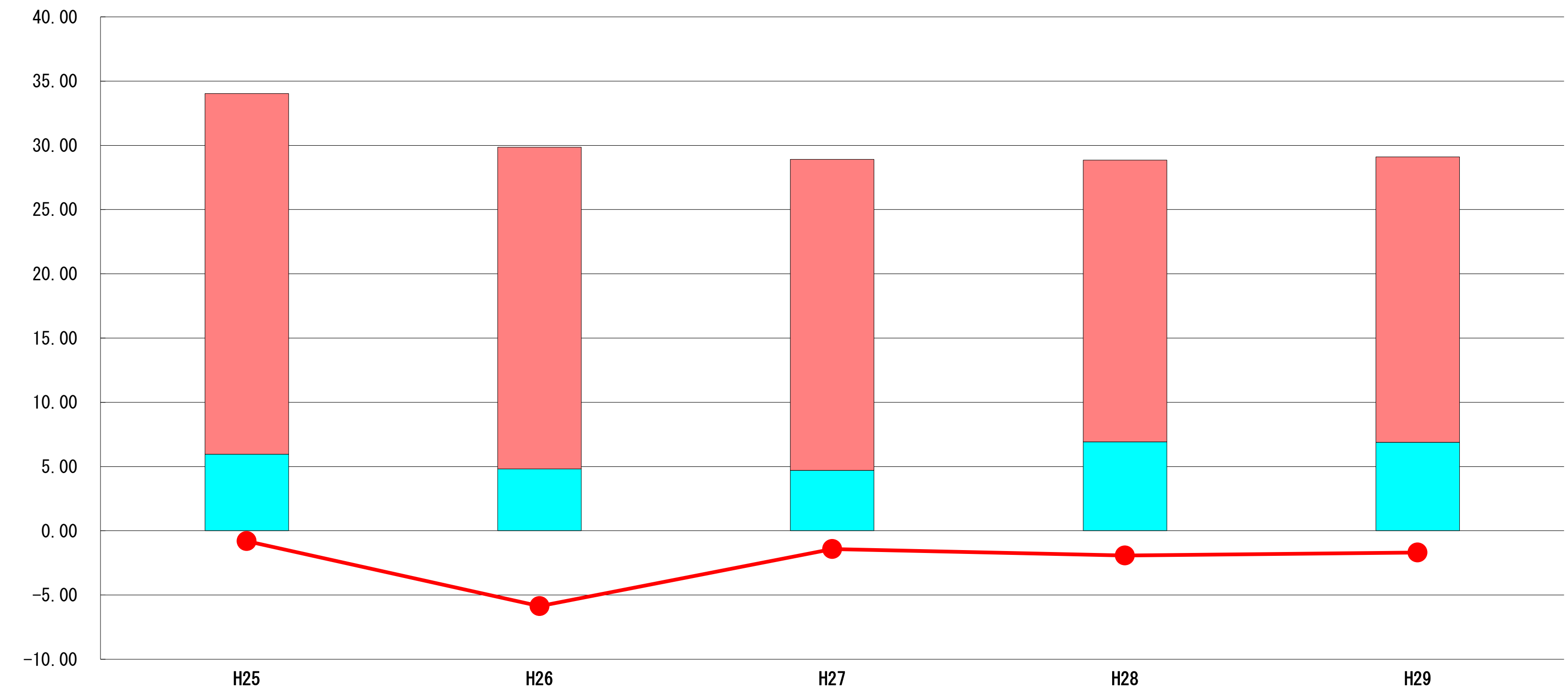
農林水産費については、畜産振興費の増に伴い増加となった。また、消防費についても消防施設整備費の増により全体的に数値が増加している。一方で、減少がみられる費目は教育費である。これは、前年度の武道館施設整備事業において本体工事が完了したためであるが、今後も武道館周辺の整備費用が生じる見込みである。土木費は、道路整備費の減により年々減少が続いている。今後も事業内容を精査し、必要最低限の工事を行う予定であるため、少しずつ減少していくと予想される。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成29年度

栃木県那須烏山市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）		年度				
区分		H25	H26	H27	H28	H29
財政調整基金残高		28.08	25.03	24.21	21.93	22.22
実質収支額		5.96	4.82	4.70	6.92	6.89
実質単年度収支		▲ 0.80	▲ 5.86	▲ 1.43	▲ 1.93	▲ 1.69

分析欄

【財政調整基金残高】
決算余剰金の積立を行い、今後さらに厳しさを増す財政運営や災害等の緊急的経費の財源を確保していく。

【実質収支額】
実質収支額は標準財政規模の3～5%が望ましいと考えられているが、本市では4～6%台で推移しており、本年度は若干の減である。

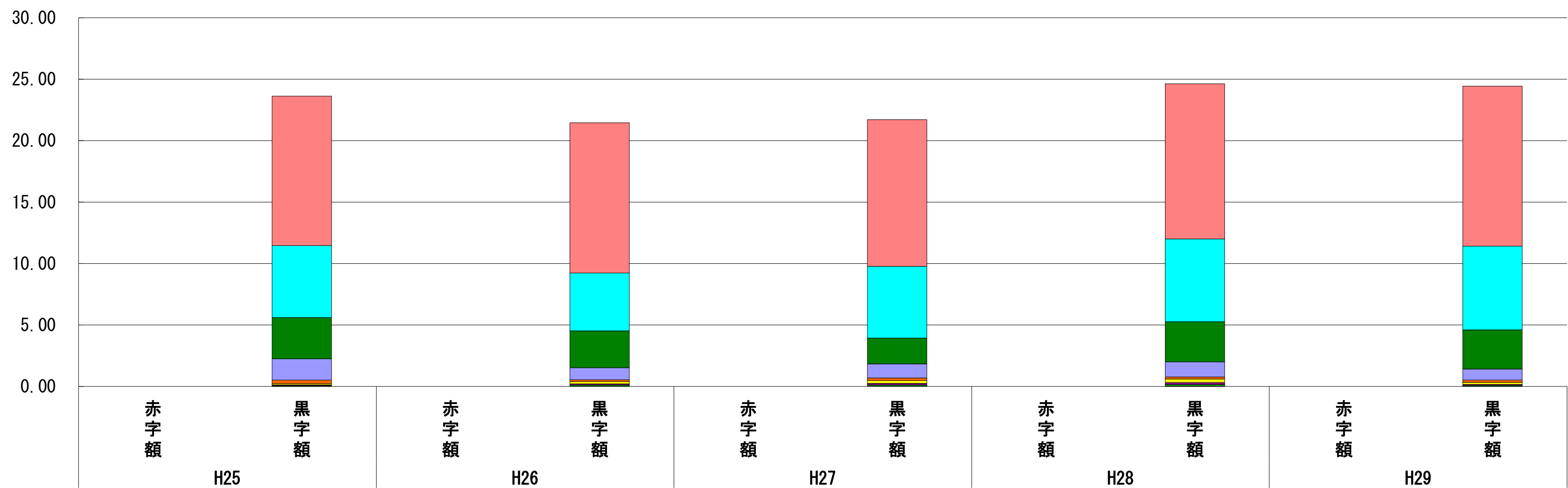
【実質単年度収支】
前年度比0.24%の減となり、依然として赤字の状況である。今後は財源の確保が一層厳しくなることが予想されるため、引き続き経費の節減と事業の適正化及

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成29年度

栃木県那須烏山市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H25	H26	H27	H28	H29
水道事業会計		12.16	12.23	11.92	12.62	13.03
一般会計		5.87	4.70	5.83	6.73	6.80
国民健康保険特別会計		3.34	3.00	2.12	3.27	3.18
介護保険特別会計		1.73	0.99	1.13	1.22	0.90
下水道事業特別会計		0.30	0.14	0.22	0.17	0.20
簡易水道事業特別会計		0.09	0.19	0.22	0.28	0.16
熊田診療所特別会計		0.08	0.11	0.15	0.18	0.08
後期高齢者医療特別会計		0.03	0.07	0.09	0.10	0.07
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.03	0.03	0.02	0.05	0.02

分析欄

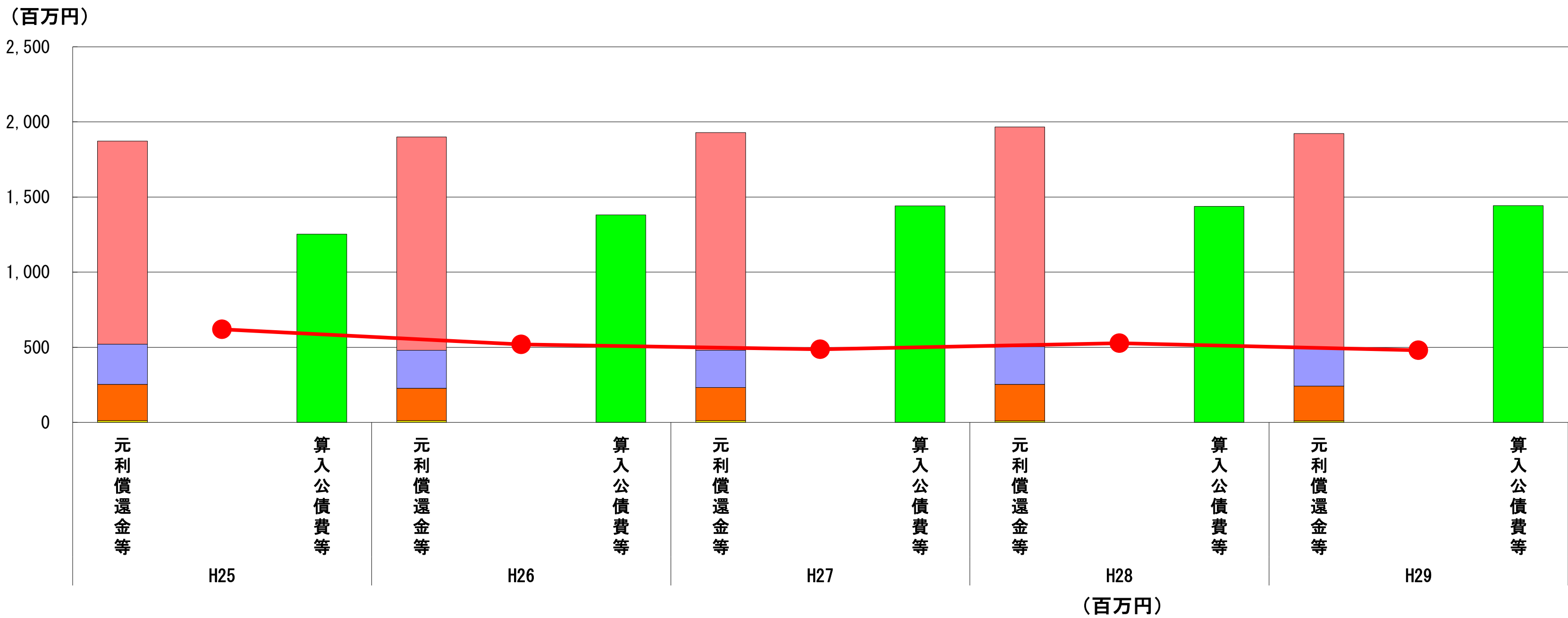
- 【水道事業会計】償還額の減に伴い黒字額が増加した。今後は水道施設の老朽化による修繕費の増加が見込まれるため、計画的な修繕を行い健全な運営に努める。
- 【一般会計】起債発行額の減少により償還額が減少したため、今後黒字が増加するものと思われる。財政計画を基準に健全な財政運営に努める。
- 【国民健康保険特別会計】国民健康保険税の増額が見込めず、医療費が年々増加している状況にあり、財政状況の悪化が懸念される。今後は保険料の適正化を図るなど、健全運営を図る。
- 【介護保険特別会計】高齢化率が高く、給付費の増額が懸念されるため、今後は介護認定審査の適正化や介護予防教室等の健康づくり事業を推進し、財政健全化を図る。
- 【下水道事業特別会計】水洗化率が伸びず、投資への負担が大きくなっている。今後は下水道区域の見直しや単独浄化槽撤去費用助成のPR強化等で水洗化率の向上を図り、独立採算の原則に立ち返った運営に努める。
- 【簡易水道企業特別会計】簡易水道事業は整備が終了しており、維持管理費が主な経費となっているため、黒字の比率は同程度で推移していた。今後は、水道事業会計と統合される。
- 【熊田診療所特別会計】熊田診療所特別会計は、地域の人口減少や高齢化などにより診療収入が伸び悩み、一般会計からの赤字補填的な繰入に依存している状況である。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

栃木県那須烏山市



分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
元利償還金等 (A)	元利償還金		1,352	1,420	1,449	1,461	1,433
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		267	252	248	252	248
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		242	216	220	242	231
	債務負担行為に基づく支出額		12	12	12	11	11
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		1,254	1,381	1,442	1,438	1,443
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		619	519	487	528	480

分析欄

【元利償還金】近年は起債の発行額が減少しているため、今後は元利償還金も減少していく。

【公営企業の元利償還金に対する繰入金】全体的に繰入金の額が減少しているが、下水道事業の償還金に対する繰出し金については増加がみられる。今後も同程度の数値で推移していくと考えられる。

【組合が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等】南那須地区広域行政事務組合への負担金である。今年度は減少に転じたが、今後はごみ処理施設の延命化事業が予定されており、地方債の発行も行われるため、長期的には償還金に対する負担金は増加していくことが予想される。

【債務負担行為に基づく支出額】国営塩那台土地改良事業及び芳賀台地事業への負担金であり、平成21年度で塩那土地改良区事業の負担金が終了したため、同程度で推移している。

【算入公債費等】普通交付税の算入率の高い起債である合併特例債が主であり、算入額は今後も同程度で推移していく。

【実質公債費比率の分子】起債額が少なくなること、過年度の多額の借り入れ分の理論償還を迎えることから今後減少する。

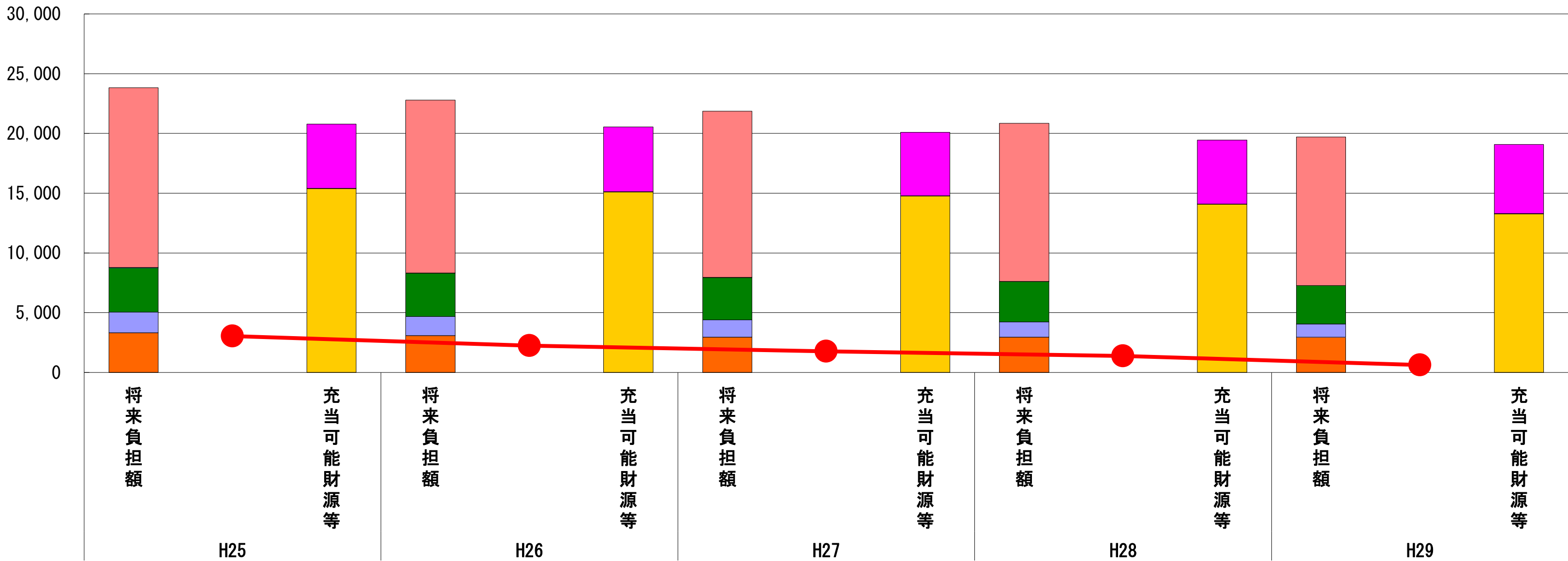
※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

栃木県那須烏山市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		15,039	14,448	13,895	13,220	12,443
	債務負担行為に基づく支出予定額		46	34	23	11	-
	公営企業債等繰入見込額		3,698	3,615	3,548	3,391	3,210
	組合等負担等見込額		1,723	1,604	1,444	1,269	1,091
	退職手当負担見込額		3,318	3,085	2,956	2,953	2,960
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		5,355	5,410	5,329	5,372	5,792
	充当可能特定歳入		37	22	21	19	14
	基準財政需要額算入見込額		15,381	15,113	14,752	14,063	13,278
(A) - (B)		将来負担比率の分子	3,050	2,241	1,763	1,389	621

分析欄

【一般会計等に係る地方債の現在高】償還額以上の借入を行わないため、年々減少している。

【債務負担行為等に基づく支出予定額】国営塩那台、芳賀台土地改良事業の負担金であり、平成21年度の負担金が終了し減少傾向にあったが、29年度には皆減となった。

【公営企業等繰入金見込額】各事業の償還金の減少に伴い繰入額も減少していく。

【組合等負担等見込額】南那須地区広域行政事務組合に対する負担金である。近年は減少傾向にあるが、今後はごみ処理施設の延命化や消防車両の更新により負担金の増加が見込まれる。

【退職手当等負担見込額】定員適正化計画による職員数の減で負担見込額は全体的に減少する見込みである。ただし、退職者の多い年は一時的に増となる可能性がある。

【充当可能基金】決算剰余金などにより財政調整基金への積立を行っているが、利子運営を行ってきた奨学基金等が国債の満期を控えており、今後は取り崩しを余儀なくされる見込みである。

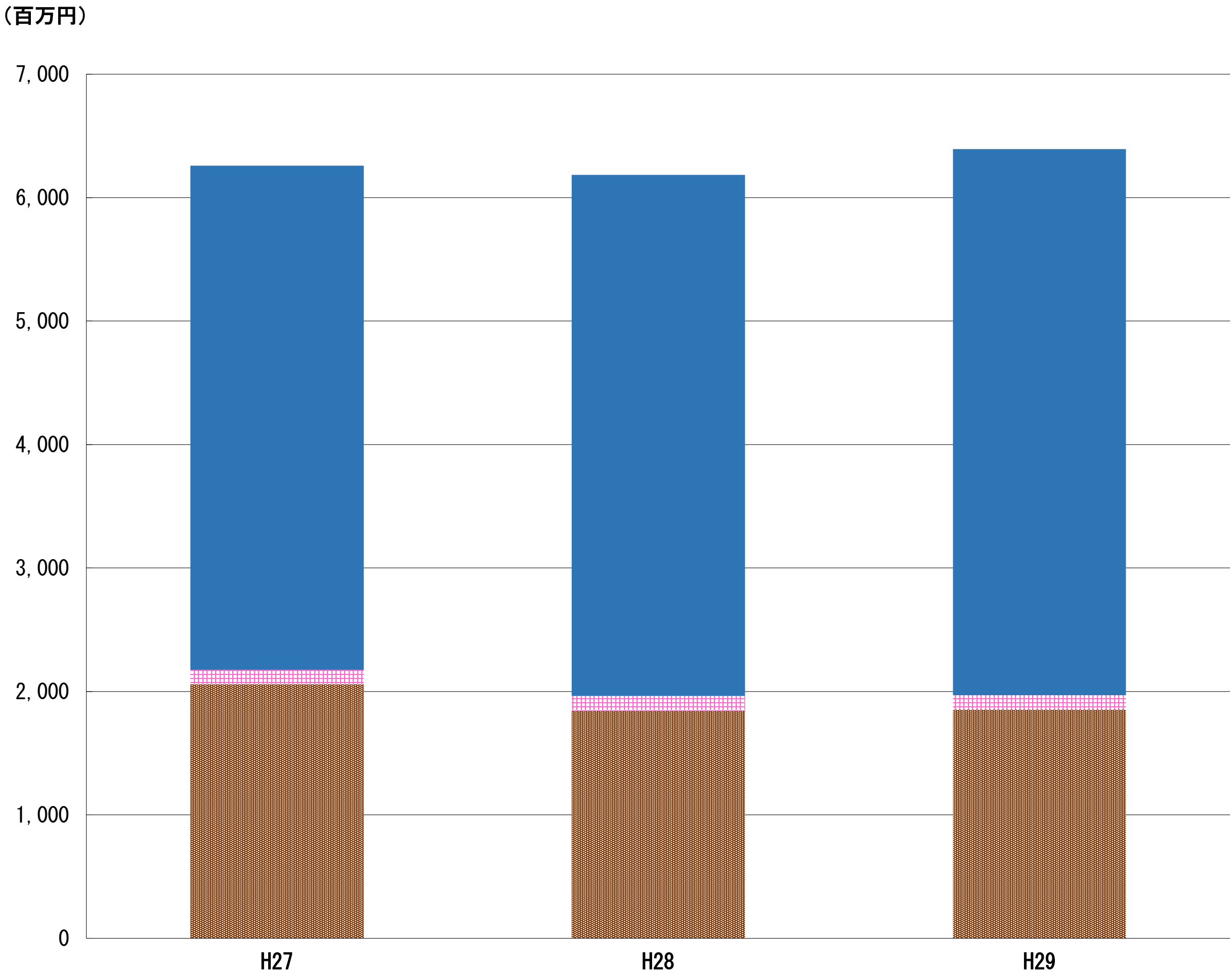
【充当可能特定歳入】充当可能特定歳入の内訳は市町村総合交付金と市営住宅使用料であり、下水道及び市営住宅整備の償還に充当しているが、今後は償還額の減少に伴い減少していく。

【基準財政需要額算入見込額】臨時財政対策債や普通交付税算入率の高い合併特例債の借入の影響による増額はあるが、清掃費や病院事業等の償還・算入終了により減少傾向にある。

【将来負担比率の分子】地方債現在高の減少に伴い、今後も減少が見込まれる。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分		年度	H27	H28	H29
	財政調整基金		2, 059	1, 845	1, 852
	減債基金		117	117	117
	その他特定目的基金		4, 084	4, 222	4, 424
	市有施設整備基金		1, 586	1, 647	1, 628
	地域振興基金		1, 340	1, 340	1, 340
	庁舎整備基金		174	305	550
	奨学基金		417	418	416
	地域福祉基金		306	297	274
	基金残高合計		6, 261	6, 184	6, 393

平成29年度	栃木県那須烏山市
基金全体 (増減理由) 決算余剰金を基金の積立に充てたため、前年度と比べ僅かに増加している。 (今後の方針) 人口減に伴う税收減による財源不足から、徐々に減少が見込まれる。 今後は新庁舎の整備など大規模な普通建事業の実施が予想されるため、事業費を確保するためにも基金の積立を進めていく。	
財政調整基金 (増減理由) 決算余剰金を財政調整基金の積立に充てたため、残高が増額となった。 (今後の方針) 今後も決算余剰金を財政調整基金の積立に充て、基金残高の維持確保を図る。	
減債基金 (増減理由) 増減なし (今後の方針) 現状維持とする。	
その他特定目的基金 (基金の用途) 市有施設整備基金…市有施設の整備に要する経費の財源に充てるための基金。 地域振興基金…市民の連帯の強化と地域振興のための事業の財源に充てるため基金。 庁舎整備基金…庁舎の整備に要する経費の財源に充てるための基金。 (増減理由) その他特定目的基金については全体的に増加しており、主に庁舎整備基金残高の増が要因となっている。 (今後の方針) 庁舎整備基金の積立を優先的に行い、基金残高を増やしていく方針である。	

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

平成29年度

栃木県那須烏山市

人	口	27,161	人(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%						
う	ち	26,904	人(H30.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率	-	%				
面	積	174.35	km ²	実	質	公	債	費	比	率	7.1	%					
歳	入	総	額	将	来	負	担	比	率	8.9	%						
歳	出	総	額														
実	質	収	支	市	町	村	類	型		H25	I－O	H26	I－O	H27	I－O		
標	準	財	政	(	年	度	毎	)		H28	I－O	H29	I－O				
地	方	債	現														
地	方	債	現														
		高															

- 当 該 団 体 値
- 類似団体内平均値
- 類似団体内の
- 最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※ 平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還可能年数、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。

有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却率

[-]

固定資産台帳整備中・未整備

類似団体内順位

-/-

全国平均

59.3

栃木県平均

53.5

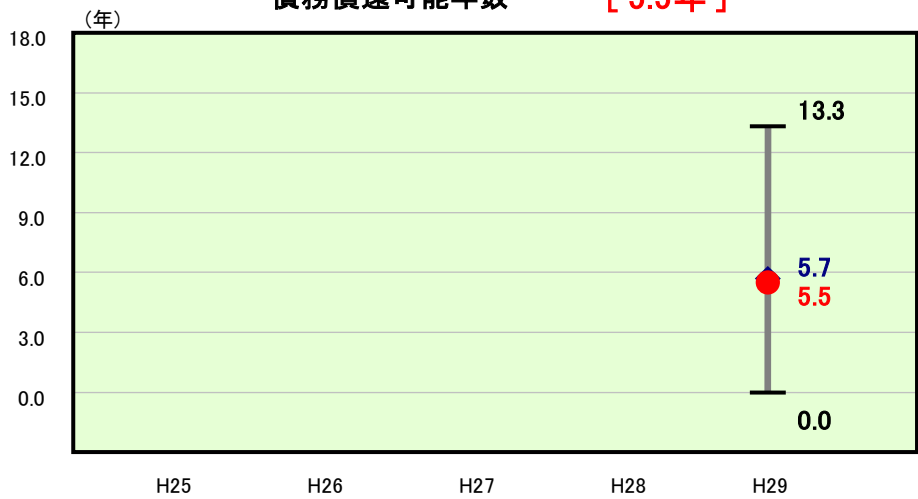
有形固定資産減価償却率の分析欄

ここへ入力

(参考)債務償還可能年数

債務償還可能年数

[5.5年]



類似団体内順位

17/35

全国平均

6.5

栃木県平均

5.1

債務償還可能年数の分析欄

債務償還可能年数については、県内平均値と大きな差が広がることはなく、また類似団体と比較しても中ほどの順位であるため、妥当な数値と判断できる。県内平均値や類似団体の状況を基準とし、今後の推移を検証していく。

将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

将来負担比率と有形固定資産減価償却率の推移

固定資産台帳整備中・未整備

分析欄

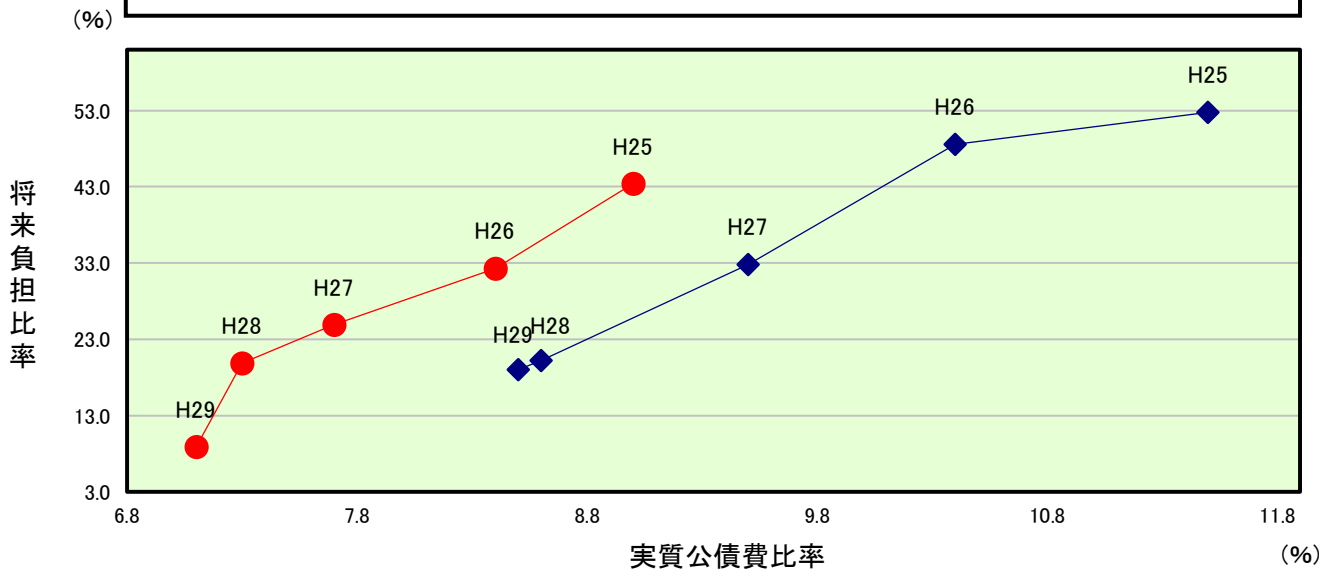
ここへ入力

(参考)

		H25	H26	H27	H28	H29
当該団体値	将来負担比率					
	有形固定資産減価償却率					
類似団体内平均値	将来負担比率					
	有形固定資産減価償却率					

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析

将来負担比率と実質公債費比率の推移



分析欄

行税政集中改革プランにより、地方債の発行を償還額以内とし、起債額を抑制したため、将来負担比率及び実質公債費比率は年々減少傾向にある。

(参考)

		H25	H26	H27	H28	H29
当該団体値	将来負担比率	43.4	32.3	24.9	19.9	8.9
	実質公債費比率	9.0	8.4	7.7	7.3	7.1
類似団体内平均値	将来負担比率	52.8	48.6	32.8	20.2	19.0
	実質公債費比率	11.5	10.4	9.5	8.6	8.5

(13)–1市町村施設類型別ストック情報分析表①

平成29年度

栃木県那須烏山市

人	27,161	人 (H30.1.1現在)	実 質 赤 字 比 率	-	%
う ち 日 本 人	26,904	人 (H30.1.1現在)	連 結 実 質 赤 字 比 率	-	%
面 積	174.35	k m ²	実 質 公 債 費 比 率	7.1	%
歳 入 総 額	12,317,456	千円	将 来 負 担 比 率	8.9	%
歳 出 総 額	11,682,249	千円	市 町 村 類 型	H25 I－O	H26 I－O
実 質 収 支	574,363	千円	(年 度 毎)	H28 I－O	H29 I－O
標 準 財 政 規 模	8,333,004	千円			
地 方 債 現 在 高	12,443,095	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

固定資産台帳整備中・未整備

施設情報の分析欄

ここに入力

(13)–2市町村施設類型別ストック情報分析表②

平成29年度

栃木県那須烏山市

人	27,161	人 (H30.1.1現在)	実 質 赤 字 比 率	－	%
う ち 日 本 人	26,904	人 (H30.1.1現在)	連 結 実 質 赤 字 比 率	－	%
面 積	174.35	k m ²	実 質 公 債 費 比 率	7.1	%
歳 入 総 額	12,317,456	千円	将 来 負 担 比 率	8.9	%
歳 出 総 額	11,682,249	千円	市 町 村 類 型	H25 I－O	H26 I－O
実 質 収 支	574,363	千円	(年 度 毎)	H28 I－O	H29 I－O
標 準 財 政 規 模	8,333,004	千円			
地 方 債 現 在 高	12,443,095	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

固定資産台帳整備中・未整備

施設情報の分析欄

ここに入力